



Title	黎明期日本社会党の地方組織（1）：「日本社会党北海道支部連合会期間報告」（1948-1951）の紹介
Author(s)	前田, 亮介; Maeda, Ryosuke
Citation	北大法学論集, 72(5), 281-348
Issue Date	2022-01-31
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/83979
Type	other
File Information	lawreview_72_5_07_Maeda.pdf



黎明期日本社会党の地方組織（1）

——「日本社会党北海道支部連合会期間報告」（1948-1951）の紹介——

前 田 亮 介

[注記]

- ・本稿は北海道大学附属図書館北方資料室所蔵の「日本社会党支部連合会期間報告 昭和23年↔25年」を全文翻刻し、紹介するものである。
- ・今号掲載の（1）では1948～49年末の「期間報告」の翻刻が、次々号に掲載予定の（2・完）では残りの期間（昭和25年とあるが、実際には1951年1月まで存在する）の翻刻および解説が載せられる。
- ・本「期間報告」は、日本社会党北海道支部連合会（当時）が作成したもので、1965年10月に「複製」が本学図書館に寄贈されたようである。原資料の行方は不明であるが、青焼きコピーを元としているため劣化が（おそらく複製前の時点から）著しく、かすれて判読が困難な箇所も散見される。その箇所については■、物理的な困難はないが翻刻者が解説できなかった箇所については□で、それぞれ表現した。
- ・本「期間報告」はおおむね時系列に沿って、また期間ごとに区切って日録体で記される反面、時系列の逆行や同日付の重複も少なくない。以下では基本的に再整理はせず原文の配置のまま翻刻したが、冒頭の1949年（48年でなく）1月14～21日の「期間報告」だけは明らかに誤った場所に挿まれたものであるため、当該時期に移した。
- ・原文は縦書きだが、横書きとした。読みやすさを考慮して、漢数字は年月日に関してのみアラビア数字にあらためた。また適宜、行替えや句読点の加削をおこなった。
- ・資料中の〔 〕は翻刻者の補注であり、（ ）は作成者の原注である。

日本社会党北海道支部連合会期間報告

昭和23年1月14日■■■1月27日に至る間の日本社会党北海道支部連合会（以下道連と呼称）の行動を左の如く報告す。

記

一、〔1948年〕1月16日〔金〕日本社会党全国最高会議を東京都千代田区神田三崎町・日本大学講堂に於いて開催。

開催第一日目〔1月16日（金）〕は

（1）開会の辞 加藤瞭造

社会党としては本大会こそその運命を決定する重大なる意味を有することを強調す。

（2）議長選挙に松岡駒吉、副議長に松本治一郎、小泉秀吉、辻井民之助、大矢省三。

（3）議事

先づ政策の根本的前提を占むる四党協定に就き紛争化したる為、翌日に繰越さる。

第二日目〔1月17日（土）〕

財政金融、国民生活、農林、中小商工、労働生産増強、政治政策、運動方針、及大会運営、規約改正、役員選、資格審査の各小委員会が別室に於いて開催さる。

第三日目〔1月18日（日）〕

四党協定破棄と修正案に就き賛否夫々の演説が有りたる後、各連合会代議員の投票ありて原案（協定破棄が通過）成立す。

第四日目〔〔1月〕19日（月）〕

役員選挙に全代議員投票に依る選挙実施。

委員長 片山哲 書記長 浅沼稻次郎 会計 中崎敏と決定。

次いで各小委員会報告ありたる後、大会宣言朗読して閉会す。午後七時。

本最高会議には、道連より喜多〔幸章〕書記長、西村〔武夫〕書記次長、高橋〔恒夫〕書記出席し、地方選出代議員として三笠支部小鴨〔義雄〕、北見支部武沢〔??〕の二名同行す。

二、日高種馬牧場及新冠御料牧場解放の為、現地代表者二名、道連より喜多〔幸章〕書記長、渡辺〔國於〕書記上京。

1月21日〔水〕

■■■■■■■■■■〔原文1行ほど判読不能〕的賛同を得。

1月22日〔木〕

農林省畜産局長〔遠藤三郎、1949年1月衆議院選挙に民主自由党から立候補・当選（連続9期）、自民党では岸派に所属〕と面会す。当方の主張である、日高、新冠両牧場が民主化された今日、未だ特権的存在を続け不合理極まる経営と地方民搾取の歴史を主張し、更に数字を挙げて無能力性を断定したるも、局長は未だにその官僚性の中で物を考へ該牧場の実体を不知らざる現情にある。其他社会党選出代議士木下源吾、山中日露史、永井勝次郎を通して解放に尽力して貰うことにした。調査資料不備の為退京に決す。

（以上）

日本社会党北海道支部連合会期間報告

昭和23年3月1日より3月13日に至る間の日本社会党北海道支部連合会（以下道連と呼称）の行動を左の如く報告す。

記

一、札幌労働者大会を北労会議主催にて午後一時より大通七丁目広場にて開催、社会党道連より西村〔武夫〕書記次長出席。
「労働法改悪に対する政府の責任を追求しその企図する改悪案即ちクローズドシヨップ制の禁止、非現業官庁の争議禁止、労働委員会の司法化、労組代表の官選化、其他既得権の剥奪を指摘して全面的に反対運動する旨を述べた」。

二、3月7日〔日〕 常任執行委員会、統制委員会、道会議員会を午後二〔カ〕時より道会議員室にて開催。出席者 鈴木〔源重〕委員長、水島〔宣〕副委員長、喜多〔幸章〕書記長、道会議員十六名参集。

- （1）労働法改悪に就いてこれが積極的に反対運動を展開することに決議す。尚共產党とは連繋しない事を申合はせた。
- （2）電気税課税の方針を大衆課税としないで産業資本金家負担とすべく道議会の空気を見てから提案することに決定。
尚、電産首脳部の経過概要の報告あり。

- (3) 道会議員会改選に対する報告として議員会が成立当時一本立でなかつた為、道連から一方的に決定されたものである為、これが民主的運営を計ることに決議した。役員改選についての諒解成立後、会長に斉藤正志〔石狩支庁選挙区〕が任命された。これで社会党道議員会は田中道政を強力に推進させ、資本家陣営及共産党活動からの攻勢を防ぎ得る具体的態勢に入った。
- (4) 道会議員会（社会党）の幹事として在任していた田中三治道議〔上川支庁選挙区、除名後は民主自由党所属〕が議員会の重要事項協議等其他情報を他党へ漏洩するので、党活動の積極化のため除名を決議す。
- (5) 教員組合争議に就いて横路〔節雄〕道議〔札幌市選挙区、この年12月辞任〕より経過報告あり。即ちストライキは可能な限り避ける方針で妥結点を見出すことに努力している事を強調して教員組合争議解■■■■■■〔総字数不明〕。

常任執行委員会としてはこれから急速解決を決議し、斎藤〔正志〕、西村〔武夫〕両氏を委員に、時田〔政次郎・後志支庁選挙区道議〕、平野〔晁〕常任〔執行委員〕を協力せしめて具体的に行動すべく申合はせた。

^{〔ママ〕}
四、3月11日〔火〕 琴似町懇談会を琴似支部主催にて同町役場にて午後六時三十分より開催。喜多〔幸章〕書記長出席して中央政治情勢として芦田〔均〕内閣成立に関する報告について憲法の首相指名に関する事項説明、社会党の今後の方向として、党大会の決議に基き民主革命を更に検討の上、片山〔哲〕委員長の云う中道政治に進むべき事を強調す。

(以上)

日本社会党北海道支部連合会期間報告

昭和23年3月14日より3月28日に至る間の日本社会党北海道支部連合会（以下道連と呼称）の行動を左の如く報告す。

記

一、3月14日〔日〕

引揚者促進道民大会が午後一時西創成小学校にて開催されたので、道連より喜

多〔幸章〕書記長出席し、社会党として

「積極的に連合軍に懇請し、昭和二十三年度中に全部帰還出来る様に協力して総運動を展開したい。そして特にこれ等未帰還の留守家族に対してその生活を十分に援助して行かなければならない」と挨拶す。

二、〔3月〕15日〔月〕

開拓者連盟総会が午前十時より北海道大学農学部講堂にて開催。社会党道連より竹花〔猛〕書記出席し

「開拓の急務は縮小された国土の充分な利用に依る食糧自給への一環としての使命と、失業の潜在が次第に表面に現出して来ている今日、これが失業者の帰農者との組み合わせによる解決も当然期待される。」と述べる。

三、〔3月〕16日〔火〕

三井美唄〔炭鉱〕職場支部懇親会を午後四時より開催。道連より喜多〔幸章〕書記長出席し

「職場支部が地域支部と同等の地位が与へられた事に就いて、今後の職場支部が従来組織運動にどうしても名目だけの地域支部に制約されて来たから、今後は自由且強力に運動出来ると説明。更に、共産党のフラクション活動には断乎として斗はねばならぬ故、支部の強力な運動を展開して欲しい」と結ぶ。

四、3月21日〔日〕より五日間

道連組織部高橋〔恒夫〕常任は滝川地区に出張す。党支部を歴訪して、党地方協議会強化の為の具体的方針確立と不活潑な青年部を強化するために青年部の協議会を設定することに就いてその準備を要請した。これ等地方青年の動きを道連政策に積極的に取上げたいと云う方針を確立した。

五、3月26日〔金〕

滝川化学社会党支部の活動資金カンパを兼ねて、文化運動として演芸会開催す。喜多〔幸章〕書記長出席し

「党活動の為の資金は文化運動を通して行はれることは誠に望ましい事で、實際文化運動を通じる以外に方法がないと挨拶し、更に党の方針として中央情勢をよく観察した上で積極的にかゝる催しをして戴きたい」と述べた。

六、〔3月〕27日〔土〕

国鉄岩見沢主催の各党立会演説会を開催され、道連より西村〔武夫〕書記次長出席し

「社会党の立場から労働組合運動は従来の如く或る特定のイデオロギーを有す

る指導者によつて引きづられて来た。党は労組の民主化の為に敢て立止り真の労働者の自覚に於いて動かされる様に労組運動に積極的に協力応援して行く覚悟である」と論ず。

（以上）

日本社会党北海道連合会期間報告

昭和23年4月1日より4月13日迄に至る日本社会党北海道支部連合会（以下道連と略称）の行動を左の如く報告す。

記

一、4月6日〔火〕

札幌支部青年部及道連青年書記は、中央より帰道した岡田春夫代議士を迎へて、午後四時より道連事ム所にて「中央情勢と青年部の在り方」・「青年オルグ講習会」の二件で懇談会開催。

「中央情勢は今の所著しい動きはないが、社会党左派と云はれる吾々としては、あくまで党が大衆を基盤として立っている以上その線を強化して青年の情熱と純粋性に俟つて社会党それ自体を強化確立しなければならない。」

次に平田〔勝美〕青年部長

「青年オルグ講習会を開催するに就いて、共産党の活動に対しては先づ青年党員幹部の基本的理論の確立を計り、青年部が各組織を通じてその主導性を確立しなければならない。過去の有名無実の教育を刷新して新たな方法論に立脚したものでなければならない。」

（詳細は添付パンフレット）

二、4月9日〔金〕

日本農民組合・北海道支部大会を旭川市民館にて開催。道連より喜多〔幸章〕書記長及竹花〔猛〕書記出席す。

日本における農民運動、特に本道に於いてはその特殊な封建性の故に最も早く農村に喰込んだる共産党勢力が考へられるが、本日農〔日本農民組合〕大会参集の各代議員は主として共産党員であるため、社会党農村部としては、中央に於ける日本農民組合民主化同盟の線に沿ひ、傍觀的態度を持するのみであった。

三、4月10日〔土〕

苫小牧市制祝賀会に道連より鈴木〔源重〕委員長及び岡田〔春夫〕代議士出席し

「党の立場より中央集権より地方自治の強化に向っている現在、本市が新たに市制をしかれることは甚だ慶賀に堪へない」。

四、4月12日〔月〕

全石炭懇談会を全炭会議室にて開催。道連より太平〔大平郁二〕常任出席。主として、ストライキの宣伝戦、他団体との共同斗争、戦線整理か斗争継続か、に大別して懇談す。

「共産党の矢野〔? ?〕以下三名は、労働法改訂、物価改訂後の斗争は益々追ひつめられた形になるから、あくまで斗争は続行しなければならぬと主張するに對し、太平〔郁二〕常任は国鉄電産も一応計□を打切□□□たる段階に入った以上、現在の様に生産を戦術の三〇□□□□□□□□も上廻っている時、安定恐慌により生産の縮少と失業者を大量に生ぜしめる、これで経済を崩壊せしめる危険があるから、生産増大の唯一の道たる組織労働者の強化によつてその創意と決意に基く生産斗争でなければならぬ〔い〕と、共〔産党〕のスト戦術を理論的に一蹴した」。

五、4月13日〔火〕

コール北海〔社〕主催・各党立会演説会を鉱業連盟にて開催。道連より太平〔郁二〕常任出席。

「炭鉱労働者が賃上斗争をするのは、自己の賃金のみならずむしろ家族の生活必需物資の要求から出発したものである。故に経営者は資本家から一応分離したものである以上、所謂経営者主義と云つたものを確立しなければならない。即ち経営者はむしろ労務者と共に一体となりて経営の主体性を確立したときには、当然労務者とも一体となるものでなければならない」。

又「篠田〔弘作〕（自由党）の米英両国との比較については日本特に本道の原始的採炭法を指摘、柄沢〔とし子〕（共産党）のスト戦術へのアヂテーションに就いてその粗雑な労働者の生活改善方式を粉碎した」。

六、4月13日〔火〕

メーデー対策準備委員会を公民館にて開催す。道連より塚本〔肇〕常任出席。〔4月〕30日は青年夫人総蹶起会による炬火行進によりて始まる。5月1日は映画・演劇・音楽会を開催する。予算は十万円とし、五万四千五百円は全道から残は札幌負担と決定した。スローガンは、（1）■■■賃金制の確立、（2）

世界労連への参加、（3）〔以下ほぼ1行判読不能〕改悪反対、（5）大衆課税反対

（以上）

日本社会党北海道支部連合会期間報告

昭和23年4月14日より4月26日までに至る日本社会党北海道支部連合会（以下、道連と称す）の行動を左の如く報告します。

記

4月14日〔水〕

都市計画地区農地指定の現地調査の為、委員会の小作層代表である道連書記長喜多幸章は留萌市に出張、調査後、社会党留萌支部幹部と懇談を行った。

4月15日〔木〕

鈴木〔源重〕道連委員長、釧路地方大会出席の為出張の途中、白糠支部、並に尺別、庶路の両炭砦を15、16〔日〕の二日間遊説す。なほこの時、尺別炭砦労組委員長本田力蔵氏、党に入党することを確約せり。

4月15日〔木〕

喜多〔幸章〕書記長留萌よりの帰途、浅野、沼沢両支部にて懇談会を幹部と開催。国際情勢、議会情況、並に党最近の状勢に関し意見の交換を行った。

4月14日〔水〕

道連高橋〔恒夫〕常任書記は14日より2日間、北空知地方の党支部の状況調査、並に岡田〔春夫〕代議士の遊説連絡、及び青年部オルグ教育計画実施の件につき、豊沼、砂川、上砂川、歌志内、赤平、豊里、茂尻、瀧川の各支部を巡廻す。

4月15日〔木〕

小樽漁民組合代表の一行が鯨不漁による加配米の配給停止に関し〔田中敏文〕知事に対してその配給を陳情に来たので、道連□□〔にてヵ〕時田〔政次郎〕道会議員がこれを紹介あっせん〔斡旋〕す。

4月17日〔土〕

全石炭道支部臨時大会に岡田〔春夫〕代議士も大要左の如き発言をなした。
「全石炭のこれ迄の斗争は非常に戦動的に勇ましいかぎりではあったが、その中に何か割切れぬ物がある。然も粗雑な感じはまく〔ぬ〕かれなかったが、

敗戦以来既に三年、その労働運動にも斗争戦術にも唯多数で压せば良い、大衆の圧力でかくとく〔獲得〕しようと云ふごとき幼稚な域より早くだつ〔脱〕して、敵が策をろう〔弄〕すればするほどかえつて冷静にどう〜たる態度で斗ふ様にしてもらいたい。

又現在炭砒労組の戦線が四つにも分裂して居る事は、資本家陣営が完全な起〔立〕直りを見せた今日、実に労働階級によつて残念な事であり、我々の力がその統一の為にいささかでも役に立つならば、如何なる労苦もおしむものではない。今迄の色々ないささかは一切水に流して統一の為の斗争を新に展開せられん事を望む。さもなくば、折角一歩前進と考へられた炭砒□□□□価値もと□□□労働者の総力の結集がなければ半減する□〔でカ〕あらう」

4月18日〔日〕

春採支部結成大会に鈴木〔源重〕委員長、太田〔益夫・釧路市選挙区〕、本間〔武三・釧路国支庁選挙区〕各道議出席、党員約百名出席して運動方針の決定、役員選挙を行った。同日、釧路支部の第二回大会が行はれ、同じく委員長、両道議出席し新たな態勢を確立した。

4月18日〔日〕より

岡田春夫代議士が空知地方の各炭砒並に党支部を視察、国会報告並に内外状勢及び炭砒国管問題に関する講演会、座談会を開催す。

4月22日〔木〕

北海道議会招集さる。電気消費税徴集に関する再審議を行ったが、来る〔4月〕30日再び招集されて審議する事になり、その間各党より代表が上京して実情調査する事を決定。社会党としては上京中の西村武夫道議を調査代表と決定す。なほ、党道会議員会としては態度未決定なるも、原案讚成に大勢は向つてゐる。

4月22日〔木〕

室蘭登別に於いて開かれた道国鉄合同大会には道連より炭砒部長大平郁二が出席、大要左の如き発言をなした。

「少数の考へるイデオロギーによつて正しき労働運動を左右してはならない。我々は特に官公労組が一般の輿論を軽し〔視〕して我が国内外の諸情勢を考へもせず、一方的に政府攻撃をやる事に対して疑ぎ〔義〕を持つ。願はくば命□の労働運動に□かず、自らの官僚セクショナリズムを□ぜ□□ると同時に健全な、しかも御用化されざる斗争を展開されん事を切望す。」

4月21日〔水〕

黎明期日本社会党の地方組織（1）

本日より三日間都市計画地区農地委員会が日本赤十字支社会議室にて行はれ、喜多〔幸章〕書記長出席す。

4月25日〔日〕

高橋〔恒夫〕常任書記、稚内に出張。中野〔了応？〕組織部副部長と組織整備問題にて懇談す。

4月28日〔水〕

北海道新聞第一労組の結成式が公民館にて行はれ、喜多〔幸章〕書記長出席す。

4月28日〔水〕

衆議院鉱工業常任委員長伊藤卯四郎代議士、北海道の炭砒視察の為に来道、28日は党本部にて在札の道連幹部（鈴木〔源重〕委員長、喜多〔幸章〕書記長、西村〔武夫〕書記次長、本間〔武三〕組織部長、斉藤〔正志〕、佐藤〔吉次郎（夕張市選挙区）各道議、佐藤〔昭三？〕会計監査、進藤〔浪治（正雄）〕総同盟組織部長、塚本〔肇〕同□□部長、□□〔渋谷カ〕同青年対策部長、高橋〔恒夫〕党青年部常任）と意見の交換を行った。なほ、午後一時よりの□〔全カ〕労協力会議には道連より□〔西カ〕村、佐藤〔吉次郎〕道議が出席す。

以上

日本社会党北海道支部連合会期間報告

昭和23年4月29日より5月13日までに至る日本社会党北海道支部連合会（以下、道連と称す）の行動を左の如く報告します。

記

4月30日〔金〕

岡田春夫代議士、上砂川の党支部準備会並に上砂川労組の要望にもとづき再度上砂川に演説会を開催す。

5月1日〔土〕

札幌メーデー大会に道連より喜多〔幸章〕書記長祝辞を、国会労農議員団を代表して岡田〔春夫〕代議士も祝辞をのべた。なほデモ行進には党として二十五名参加す。午後五時より青年部幹部教育の為に全道オルグ講習会の発会式が行はれてこの日より一週間合宿教育が行はれた。

5月2日〔日〕

札幌支部の再建の為の強化□新懇談会の結成式が公民館にて開催されたが、道連より喜多〔幸章〕書記長が出席。札幌支部の行動はたゞちに本道の各支部にえいきよう〔影響〕する故組織上に於いて党中党を作る様な事なく、労働階級を中心とする協同戦線党である事を明記してしんちょう〔慎重〕にしかも勇敢に^{〔ママ〕}斗ひ組織強化を完成される様」との希望をのべた。

5月3日〔月〕

午後六時より札幌市主催の立会演説会「日本ははたして民主化されたか？」に道連より喜多〔幸章〕書記長出席、大要左の如き演説を行ふ。

「各党共に衷心□□□□□□して日本の民主化を歓迎してゐるが、政策や時局の批判にいたってはおよそその逆を行く反動的社会観政治論であつて、私はこれら□□□□憲法祝福は欺瞞であり、面従腹背であると断ぜざるを得ない。また真に民主憲法を祝福し、これの確立に協力するものは、旧憲法に立てこもつて暴威を振つた支配階級から解放せられる勤労大衆でなければならぬ。」

と民主化の階級性を指摘す。

5月3日〔月〕

岡田〔春夫〕代議士夕張にて午後六時より演説会並座談会を開催、参集者約百五拾名。中央政治情勢並に炭硯国管について炭硯人と交流す。

5月4日〔火〕

岡田〔春夫〕代議士登川にて午後一時より座談会を開催、参会者約三〇名（論旨同上）。午後六時より真谷地にて座談会、出席者百名。

5月5日〔水〕

岡田〔春夫〕代議士夕張鋳業所にて□一〇時より労□拡大執行委員会開催し□□臨時会を行□□、出席者は三百五拾名。午後一時より新夕張にて開くも連絡能さる分の総出席者百名。夜六時より平□館にて演説会、出席者一五〇名。

5月7日〔金〕

联合会青年部拡大執行委員会を午後一時より公民館に於いて開催、道連青年部の再建強化運動を強力に展開する事を決議。なほ動議として平野晁青年部長の辞意の表明があり、会議にはかった結果辞任をみとめ、後任として次期大会迄平田勝美副部長が部長代理をする事に決定す。

5月8日〔土〕

岡田〔春夫〕代議士西芦別にて午後六時より演説会、座談会を開催。出席者

二〇〇名。

5月9日〔日〕

岩見澤にて大平郁二道連炭砒部長招集による炭砒党員会議を開催。岡田〔春夫〕代議士、高橋〔恒夫〕道連書記も出席して炭砒連絡協議会を作る事を決定。炭砒に強化する党組織を作って統一ある運動を展開、党勢拡大と資本、極左の両攻勢より炭砒労働者を守り抜いて増産運動の推進力ならしめんとするものである。

5月10日〔月〕

午后三時半頃、道連事務所屋根裏より火を発生し火災となるも早期発見の為事なきを得た。現因を調査の結果、附近煙突よりの飛火とはん〔判〕明す。

5月12日〔水〕

午后一時より北労会館に於いて労農救援会の世話人会が開催され、道連より高橋〔恒夫〕常任書記出席、社会党が労農救援会に参加することを決めてきた。但し、□□団体は北労会議の□□団体と□□せる社会党のみで、中立、総同盟、農民団体の参加はみられなかった。

(以上)

日本社会党北海道支部連合会期間報告

昭和23年5月14日より5月28日に至る間の日本社会党北海道支部連合会（以下道連と略称）の行動を左の如く報告す。

記

(一) **5月17日〔月〕**

道連常任執行委員会を午後一時より道連会議室に於いて開催。鈴木〔源重〕委員長以下十名参集。

道連事務所買収に関して百万円募集の方法について論議し、〔5月〕27日開催予定の執行委員会に諮るべき原案として国会議員五〇万円、道会議員三〇万円、地方支部二〇万円と基本的負担額を決定した。

(二) **5月20日〔木〕**

各党立会演説会を岩三沢地方美流渡炭砒にて開催（美流渡会館）。道連より西村〔武夫〕書記次長出席し

「労働組合運動の方向が重大岐路に立っている。勿論主として共産党のフラクション活動を排除して行かなければならないが、外資問題と相俟って全体主義的動きが顕著である。正に労働組合の主体性を確立すべきのときである。」と。

(三) 5月21日〔金〕

札幌公民館に於いてセントラル、モーシヨン、ピクチャ、エクステンヂ〔セントラル映画社〕主催・各党立会演説（題名 民主選挙は如何に在るべきか）開催。道連より喜多〔幸章〕書記長出席す。

「協同民主党、民主党、民主自由党は夫々イデオロギー及政策によつて分れる。従つてイデオロギー政策は国民生活の基盤から出ると云うことになる。社会党は勤労大衆の結合体の民主的政党で、政策の執行は選挙を対象とするもので、しかも政治的目的の一部であつて手段ではない。故に選挙は最も公正妥当なものでなければならぬ。買収響応は最も悪質な非民主的なものである。法律は違反者に対しては罰が軽すぎると考へる。選挙法は現在進行中の臨時選挙法を支持するものである。」と。

(四) 5月22日〔土〕

余市支部大会に境〔一雄〕代議士、時田〔政次郎〕道会議員等出席し、演説会開催。境代議士は中央情勢を次の如く報告した。即ち

「外資導入を契機として、中央でもその受入態勢は如何に在るべきかと論議されている。社会党としては当然速かに日本経済再建を目標にして、共産党の如き全体主義的態度は断乎排撃するものであり、少くとも民主主義の擁護を断行せんとするときは、独自なる方針即ち主体性の確立がその前提条件である。」と。

(五) 5月27日〔木〕

第四回執行委員会を道庁会議室において開催。ニセコ支部四八名の参集。主として、道連事務所買収に干する件で白熱の論議が交されたが、結極党活動のためには事ム所を不安定にして居いてはならないと結論した。募集に抛身することを申合はせた。

又、西村〔武夫〕書記次長□□〔よりカ〕提案されたる芦田〔均〕内閣のタフト・ハートレイ法の導入せんとする意図は、トルーマン大統領、大西洋憲章其他、世界民主主義の護持者の等しく反対するところのものである。吾々は芦田内閣のかゝる悪法に対し少しでも動くならば、当然猛反対運動を起すべし」と。

各支部員は充分研究の上、対処すべきことを決定した。

（以上）

日本社会党北海道支部連合会期間報告

昭和23年6月（5月29日）1日より6月13日迄に至る日本社会党北海道支部連合会（以下道連と略称）の行動を左の如く報告す。

記

5月29日〔土〕

夕張郡角田村字栗山町にて栗山新聞主催政党討論会。「如何にすれば大衆の生活は楽になるか」。道連より喜多〔幸章〕書記長出席、
「新しき民主主義下の国民は、社会進化の方向即ち社会民主主義の線に沿って政治的に目覚めることが最も基本的なる要素である」
討論会終つてから、聴集に対し政党支持輿論調査を為す。社会党三六五、共産党一七二、自由党一七二、国協党一三六、民主党四四。

6月3日〔木〕

深川町社会党深川支部後援、郷友会（青年団）主催の社会党演説会“政治研究の夕”を開催す。道連より喜多〔幸章〕書記長出席。
「社会党の性格が社会民主主義の原則に立脚して、民主革命の現段階に於いては、極左及極右の反動攻勢と斗はなければならない。」

6月3日〔木〕

北見紋別町古屋正気追悼演説会開催。道連より荒〔哲夫〕、佐藤〔吉次郎？〕、平野〔晁〕、磯村〔匡〕各常任執行委員出席。各常任委員は夫々の立場より「^マ古屋氏の生前に於ける活躍を追想して後、祖国の再建は社会民主主義を原則としたる平和革命以外にないことを数々引用して多数の参集者を魅了した。

6月9日〔水〕

全通北海道大会が小樽で開催され、道連より西村〔武夫〕書記次長出席。
「現日本の労働運動特に官業労働者の最前衛にある全通労働組合がその労働組合の正しき在り方、即ち民主主義の徹底は更に大きな苦難の後にこそ達成されなければならない。」

6月10日〔木〕

道労働委員選任問題につき知事〔田中敏文〕と北労会議の紛争依然たるものがある。道連では、北労、中立、総同盟の三団体に懇談申入れを為すも、結極空廻りに終り結論を得ず散会。事態拾収には益々見通しがつかなくなつたが、更にこれが問題に対して努力することを協議しなければならぬ。

(以上)

日本社会党北海道支部連合会期間報告

昭和23年7月1日より7月13日迄に至る日本社会党北海道支部連合会（以下道連と略称）の行動を左の如く報告す。

記

7月10日〔土〕

午前十時より札幌公民館に於いて道連第二回地方委員会開催したが、出席人員不良のため（午前中）各支部よりの一般党運動、特に共産党フラクション活動に対する斗争を中心にした運動について報告ありたる後、自由討論に入る。主として、今回の予算反対投票の社会党青票の除名が是か非かについて論争す。反対票是とする方は、統制問題から党規に反することは理由の何たるを問はず分派行動であるから除名されて然る可き』と云う論拠で、一方除名が非であるとの理由は「社会党が、勤労大衆の政党である限り、社会党大会で決定された基本的性格、即ち勤労大衆擁護のため忠実に行動すべきであるから除名は全く非である」と云う。

7月11日〔日〕

昨日に引続き地方委員会開催。地方委員は二十九支部、六十一名出席し、更に千葉〔信〕参議院議員、永井〔勝次郎〕衆議院議員出席す。千葉、永井両議員の夫々の立場より、中央政治情勢の報告ありたり。大要は次の如き報告す。

千葉「社会党が今日勤労大衆の信を失っているのは、西尾〔末広〕等の、党を全く汚濁せしめる行為があるからで、更に社会党立党の精神、党大会の決定を次々破棄して行くからである。吾々は、最初から新党とか、脱党とかは考へていなかった。しかし、今回の青票を投じたことは、附随的なことで、その本質は、粛党にあった」と説明す。

永井「予算問題と党の態度について云へば、時間的に又技術的に云って社会党

としては全くインフレ促進以外何ものでもない。〔昭和〕23年度予算には修正案で臨んだが、結果は不成功だった。しかし一応予算をのんで社・民両党の提携が限界に達した今日、今後活潑に斗つて行く覚悟である」と述べた。続いて「第三号議案 本部及通達事ム所建築資金公募に関する件」を審議す。これは全道支部が文化的、経済的、凡ゆる方法で、建築費二十万円、活動費九万円、負債十二万円余、計六十万円のカンパを展開することに一決した。

「第四号議案 道連第四回大会召集に干する件」

代議員は党員二十五名に付き一名、支部代表一名、青年部十名、婦人部五名、選出する。大会開催は臨時国会と見合はせて8月下旬か9月上旬札幌市に決定す。

「第五号議案 党統一強化対策に関する件」

各支部より意見、要求、申入れ等続出したが、結極、原案である「除名及脱党反対、議員及個人の分派的活動の禁止、肅党の徹底、党内デモクラシーの確立、中央委員会開催要求を可決した」。

残余の議案である、「労働対策に関する件、燃料対策に関する件、九支庁制に関する件、全道遊説計画に関する件、支部代表者会議に関する件」は常任執行委員会へ一任し、「道政調査会長選任に関する件」は、古屋〔正気〕前道議死去によつて空席となつているので急速に決定すべく、道会議員会へ一任して閉会した。

(以上)

日本社会党北海道支部連合会期間報告

昭和23年6月14日より6月27日迄に至る日本社会党北海道支部連合会（以下道連と略称）の行動を左の如く報告す。

記

6月14日〔月〕

午前九時より「道労働委員選出」問題で、労働総同盟、中立組合、北労会議三者代表と、道庁会議室にて労働委員依嘱に関する紛糾について懇談したが、北労会議の自説固持のため妥協不成立に終つた。

〔6月〕18日〔金〕

札幌市連合青年団主催「外資導入は如何に在るべきか」のテーマにて、五大政
党立会演説会を五時半より中央公民館に開催。

道連より太平〔郁二〕常任出席し、

「米国の対日政策が日本の非武装化と云う段階から、経済的自立の促進及共産
主義の防壁としての日本の確立と云う進展が基本条件になった今日、外資導
入はマーシャルプランに対蹠すべきアジア復興計画、即ち世界全体の復興と
調和のとれたものにならねばならぬ。それには、基礎産業の生産設備に対し
て行はれなければならない、個人に対する直結した外資には反対である。」と
の概要を論舌した。

〔6月〕23日〔水〕

小樽市配炭公団従業員組合大会に道連より太平〔郁二〕常任出席。

共産党広谷〔俊二〕氏の現下日本の労働組合が民主化同盟とか御用組合として
多く資本家陣営に利用されていると極言したのに対し、

「確かに資本陣営の反動攻勢は激化しているが、民主化同盟其他労働組合の民
主化運動は一にかゝつて共産党の悪辣なるフラクシオン活動による、日本民
主化の阻碍にある。少くとも共産党が人民大衆の党と自称するからには、自
己反省の度合不足も甚だしい。」

とこれを一蹴した。

全日 午後五時半より公民館に於いて党本部派遣の加藤宣幸（青年部副部長）、
野沢慎之助（事ム局長）を中心に、道連青年部平田〔勝美〕副部長外委員出席
し、7月15日より中央にて開催される青年部全国大会について、道連青年部提
出議案「戦術戦略」についての見当、派遣代議員割当に対する連絡事項の協議、
其他西尾〔末広〕献金に発する肅党問題を急速に運動化し、全国青年部の大同
団結を強化すべき事を申合せた。

(以上)

日本社会党北海道支部連合会期間報告

昭和23年7月14日より7月28日に至る間の日本社会党北海道支部連合会（以下
道連と略称）の行動を左の如く報告す。

記

7月14日〔水〕

高橋〔恒夫〕常任書記、豊沼支部へ出張。午後八時より岡〔? ?〕書記長宅にて「党統一強化対策に対する懇談会を開催。地方委員会の決定の線⁷⁷を再確認するも、岡田〔春夫〕氏等除名脱党組に対する同情強し。

7月15日〔木〕

喜多〔幸章〕書記長、高橋〔恒夫〕書記、夕張に出張。午後七時より夕張市市民会館にて佐藤〔吉次郎〕支部長以下三十名支部幹部出席、今次の除名脱党問題に関して地方委員会の決定の線並に道連の今後方向を発表。

座談会に於る結論として、党の主体制確立の為に徹底的な粛党は必要であるが、それは党にとゞまつていて可能なのであつて、脱党してしまへば不可能であり、今度の事件は共産党フラクの戦術に乗ぜられたものである、日本の民主革命は社会党が主体となる以外に成功しないとの判断を得て散会した。

7月17、18日〔土、日〕

社会党青年部全国大会 東京、神田、明治大学講堂に於いて開催、北海道代議員割当三十五名なるも旅費その他の関係にて平田勝美道連青年部長代理を団長として十二名出席す。代議員団出発前に全道青年部委員会を開催、左記の件に関して基本的態度を決定させた。

一、本部より提出された青年部運動方針規約改正については、道連にて考へて居た方針に大体一致する故承認、具体的問題は代議員団に一任。

二、西尾〔末広〕問題に関して

社会党が土建業者より政治資金をもらつた事に対して非難ごうべと起り、たとへ結党以来、党の最高主脳部の一人として社会党に対する功績は認めるとしても、社会党を真の大衆政党とする為には西尾を除名すべしとの意見に一致。北海道としての態度を決定す。

三、除名脱党問題に関する件

(イ) 基本的には地方委員会の決定、即ち

- (A) 除名及び脱党反対
- (B) 議員及び個人の分派的行動の禁圧
- (C) 粛党の徹底
- (D) 党内デモクラシーの確立

の四項目の線にそ〔沿〕う事とするも、青年部の特殊性に鑑みて具体性をしめす事をも含めた。

(ロ) 岡田春夫に対する青年部の^ア対度

岡田氏は今度の問題の中心人物であり、中央執行委員会にて除名されては居るが、青年部長であり、然も北海道選出である故、我々はあくまでも岡田氏を大会に出席させて岡田氏をようご〔擁護〕する事に意見の一致を見た。

右の如き基本線を代議員団に確認させ、全国の同志と連絡をとつて、党の反動化を防衛する様に要望したのであるが、大会は当初より左右対立して抗争し、西尾問題は一応除名要求決議したるも、青票組の脱党問題に関して票決に入つたが、過半数に満たざるも議長決定せる為、青票組賛成派二百数名退場、北海道もこれと同一行動をす。残留派は会議を続行、役員を選出したが、退場派は認めず、純化同盟を組織す。この間、北海道代議員は退場したものの、冷静な立場に立つて両派の感情的な争こく〔相克〕の中に理性を呼びおこし、青年部が団結して、党の反動化をふせぐ^ア為に斗ふ事を約束させ、各県連に帰へつて組織の中よりこの運動を起し、^ア新ためて臨時大会を開く事をも申合せて来た。

7月17日〔土〕

岩見澤にて三笠、美唄、ミルト〔美流渡〕、岩見沢各党支部の合同座談会を開催。道連より木下〔源吾〕参議〔院議員〕、和田〔敏明〕衆議〔院議員〕出席、党統一強化に関して道連の決定をさらに中央情勢にもとづいて妥当である事を話した。

7月17日〔土〕

夜、栗山にて栗山、長沼、由仁、幌向各支部の合同座談会を開催。道連より、木下〔源吾〕参議、和田〔敏明〕衆議並に河崎〔なつ〕参議出席。今次の青票組の行動について説明、批判を行ひ、党幹部の反動化を防ぐ^ア為には党内にて肅党運動を行ふ以外に不可能である事を話す。

7月18日〔日〕

美唄にて美唄支部再建の準備会を開き西村〔武夫〕書記次長出席。会合は岡田〔春夫〕氏の出身地なる故、除名問題が中心となり、結論として岡田氏の帰道後よく事情を聞いた上、再建運動を起す事に決定した。

7月19日〔月〕

道連緊急常任執行委員会、午後一時より水島〔宣〕副委員長宅にて開催。出席者 鈴木〔源重〕委員長、水島副委員長、喜多〔幸章〕書記長、三澤〔正男〕・平野〔晁〕・荒〔哲夫〕・佐藤〔吉次郎〕・磯村〔匡〕・寺島〔親藏〕・時田〔政次郎〕各常任及び正木〔清〕衆議、千葉〔信〕参議。

去る〔7月〕11日の地方委員会に於ける常任部に附たくされたる議題を中心としたるも、肅党問題にのみ論議が集中し、西尾問題は肅党より切はなして除名決議をすべしといふ強い発言もあつたが、肅党と云ふわくの中で問題を処理する事にした。更に小樽選出の境〔一雄〕氏の問題について、委員長より境氏は小樽支部の決定にまかすとの意志表示のあつた事を報告、道連としてはこの際岡田〔春夫〕氏並に全通、国鉄に關係のある千葉、館〔俊三〕をのぞき、境と山中〔日露史〕両氏には脱党かん告を行ふ事を決議。境氏には齊藤〔正志〕道議会長他二名、山中氏には三澤道議他二名の派遣を決定、更に千葉、館両氏には委員長が個別的に心境を聞く事に決定した。

7月20日〔火〕

喜多〔幸章〕書記長尺別に出張。尺別支部結成に關して連絡に来たため、炭硯職場支部の重要性にか〔ん〕ゞみて特に新しい組織確立の為に社会党をはつきりはあく〔把握〕させるべく、座談会を開催、出席者百名。

7月21日〔水〕

喜多〔幸章〕書記長、雄別に出張。尺別によつたので、最近結成を見た雄別炭硯職場支部の実体調査を行ふ。

7月22日〔木〕

喜多〔幸章〕書記長釧路に出張。釧路支部春採職場支部に立より懇談す。

7月22日〔木〕

紋別支部大会、道連より永井〔勝次郎〕代議士、荒〔哲夫〕道議、磯村〔匡〕常任出席、古屋〔正氣〕支部長死亡後、支部長が空席になって居たが、この年次大会によって吉澤孝作氏が支部長に就任す。大会後、時局批判、ならびに党内問題に關して演説会、座談会を開いた。

7月22日〔木〕

三井美唄に於ける立会演説会。午後五時半より三井美唄労働学校に於いて「労働法改正をすべきか」について立合演説会が開催され、道連より寺島〔親蔵〕組織部長出席、

「原則として労働法は改正すべきものではないが、日本の労働運動の現情をみる時に労働者はこれに対する義ム觀念の無い事が痛感される。若しもこのような運動が一方的に行はれて行くなれば、国民全体の為にゆるされるものではなく、日本人の民主化に応じた法規に改正される可能性が生じる。問題は労働組合が完全に民主化され組合員大衆が自覚して労働法の改正されざる様

守るべきである。但しこの機乗じて反動分子のさくどう〔策動〕する行為に対しては、断固斗ふべきである」との発表をす。

7月23日〔金〕

荒〔哲夫〕、磯村〔匡〕常任、網走支部に出張。網走支部幹部と党内問題及び支庁移転問題に関して意見の交換をす。

7月23日〔金〕

書記長〔喜多幸章〕、三井美唄に出張。三井美唄支部より連絡あって三井美唄が最近非常に反動化しつつあるとの事により、書記長、実情を調査におもむく。

7月25日〔日〕

書記長〔喜多幸章〕、三笠支部に出張。「党統一強化に関する」座談会を開催、道連の態度を報告すると共に、三笠支部の情勢を聞く。

7月25日〔日〕

佐藤〔? ?〕秘書（正木〔清〕商工次官）、高橋〔恒夫〕常任書記琴似に出張、座談会を開催。肅党は党内にとまてやるべしとの意見一致を見た。

7月27日〔火〕

札幌市自治講習所にて本部主催北海道地方ブロック会議、並に道連主催支部代表者会議、道連執行委員会を開催。

出席者

本部 加藤〔瞭造〕組織部長、正木〔清〕、井上〔? ?〕両執行委員

道連 鈴木〔源重〕委員長以下各常任、執行委員、地方委員、支部代表約百五十名。特に岡田〔春夫〕氏をも出席せしめる。

午前十時より午後七時半迄会議を続行、左の如き結論を得て、分裂か否かを注目されて居た道連は完全に分裂を回避す。

一、青票組六名の除名については本部の処置を一応承認するが、道連としては別個に除名取消しを中央委員会で要求する。

二、脱党者には反対、肅党問題は西尾〔末広〕問題をも含めて組織の末端より運動を起し、上層部に及ぼす。

との地方委員会の決定を再確認した。

7月28日〔水〕

琴似にて時局批判、農業問題演説会を開催、道連より正木〔清〕、喜多〔幸章〕、荒〔哲夫〕三氏出席。参集者約二百五十名。

以上

日本社会党支部連合会期間報告

日本社会党北海道支部連合会が昭和23年8月1日より8月31日に至る行動を左の如く報告す。

記

8月9日〔月〕

午前九時より札幌市薬師会館にて道連支部代表者会議開催、木下〔源吾〕参議〔院議員〕出席のもとに、片山〔哲・社会党〕委員長遊説対策、道連第四回大会準備に関して討議さる。片山委員長遊説は既定の方針にて日程承認を求め、異議なく決定。第四回大会準備は第二回地方委員会決定通り進行させる事にして急速に各支部の対策を夫々樹立することにした。

8月17日〔火〕

日高国静内町公会堂に於いて社会党静内支部結成会開催、道連より喜多〔幸章〕書記長、渡辺〔國於〕・竹花〔猛〕書記出席す。党员五十四名。

「片山委員長遊説報告」

8月13日〔金〕

札幌公民館にて午後七時より演説会開催。片山〔哲〕委員長は社会党が民主革命の主体的勢力としての社会党が、政治的には民主主義、経済的には社会主義、国際的には平和主義を前提として、新日本の再建に邁進すべきだと結ぶ。勝間田清一、島清、笹口晃の三名も夫々、中小商工業対策としてのインフレ収束は社会党の基本政策の断行に在ると決論し、又予算問題は客観状勢の逼迫で国民生活の安定がこれを社会党案では如何とも出来得なかつた点を解明した。時局批判も民主党内閣の政策の限界が国民生活の安定より破壊する方向にのみ馳^マっていることを理論的にも現実的にも明確な判定を下し、三千の聴集^マをして完全に納得させた。

8月15日〔日〕

岩見沢市役所にて午後一時より演説会開催、聴集約一千名、鈴木〔源重〕道連委員長、島〔清〕、笹口〔晃〕、片山〔哲〕と札幌に於けると同様の要旨にて熱弁を振う。

○砂川町豊沼の東洋高压厚生会館に午後五時より演説会、聴集約一千八百名。

弁士は島、笹口、片山（論旨は札幌に全じ）

○滝川町劇場にて二十時より演説会。聴集約二千名、鈴木道連委員長、島参議、
笹口、勝間田代議士、片山。

8月16日〔月〕

○帯広市十勝会館にて午後七時より開催。聴集三千名、鈴木〔源重〕道連委員
長、笹口〔晃〕、勝間田〔清一〕、森三樹二代議士、片山〔哲〕。

8月17日〔火〕

○釧路市春採太平洋炭砒にて十四時より開催、坑夫其他一千二百名参集、森〔三
樹二〕、勝間田〔清一〕、片山〔哲〕。

○釧路市国民劇場にて十七時より聴集二千のもとに永井〔勝次郎〕、森、島〔清〕、
勝間田各代議士、片山。

8月18日〔水〕

○釧路国弟子屈にて（弟子屈劇場）十四時より演説会開催。永井〔勝次郎〕、
島〔清〕代議士、片山〔哲〕。聴集七〇〇余名。

8月19日〔木〕

○北見市遊楽館十七時より森〔清〕、永井〔勝次郎〕、島〔清〕、笹口〔晃〕、片
山〔哲〕。市民約一千五百名。

○網走市午後一時より演藝館にて永井、笹口代議士、片山哲。聴集約一千八百
名。

8月20日〔金〕

○遠軽劇場にて九時より永井〔勝次郎〕、島〔清〕、笹口〔晃〕代議士、片山哲。
聴集一千六百名。

8月21日〔土〕

○士別劇場九時より和田〔敏明〕、笹口〔晃〕代議士、片山哲。聴集二千名。

○旭川市駅前広場に十七時半より街頭演説会開催、聴集約八千名、木下源吾、
島〔清〕、勝間田〔清一〕各代議士、片山哲。

8月22日〔日〕

○角田村栗山小学校にて十時より喜多〔幸章〕道連書記長、島〔清〕、笹口〔晃〕、
片山哲。聴集一千五百余。

○新夕張演藝場にて十七時より、喜多、島、笹口、片山哲。聴集二千五百名。

8月23日〔月〕

○余市町昭和座にて十五時より開催。聴集一千三百名、時田〔政次郎〕道議、
喜多〔幸章〕、片山哲。

○小樽市市会議堂にて十七時より。木下〔源吾〕、島〔清〕、勝間田〔清一〕、横道〔横路節雄〕道議、片山哲。聴集約二千名。

8月24日〔火〕

○苫小牧市喜楽座にて十二時より開催。喜多〔幸章〕、木下〔源吾〕、笹口〔晃〕、片山哲。聴集一千名余。

8月25日〔水〕

○伊達紋別町共楽座にて九時より開催。聴集一千八百名。喜多〔幸章〕、木下〔源吾〕、島〔清〕、笹口〔晃〕、片山哲。

○室蘭市共楽座にて十九時より演説会。木下、島、笹口、片山哲。約一千八百名参集。

8月26日〔木〕

○長万部劇場にて喜多〔幸章〕、木下〔源吾〕、島〔清〕、片山哲の順序にて開催（九時より）、聴集約八百名。

○八雲町八雲劇場にて十五時より演説会。木下、笹口〔晃〕、島、片山哲。聴集一千六百名余。

○森町小学校にて十三時より喜多、島、片山委員長夫々演説す。聴集約二千一百名。

○函館市新川小学校にて十九時より最後の演説会開催す。木下、笹口、島、勝間田〔清一〕、片山哲。聴集約二千五百名。

8月27日〔金〕

片山哲一行退道。

8月29日〔日〕

十勝国清水町社会党支部結成式を○旅館にて開催。道連より森〔三樹二〕代議士、荒〔哲夫〕道会議員、喜多〔幸章〕書記長出席す。党员五十五名。全日十九時より消防会館にて演説会開催す。

喜多は、社会党の性格について勤労大衆の結合体としてその各々の階級の共通点を具現する目的を有する政党であると。荒道議は、農村問題を解決するには国民全階層の協力とその上に立った政党の政治的な議会斗争がなければならぬと決論す。

又森代議士は議会報告として、〔昭和〕23年度予算が国民生活に重大な影響を有するものであるが、社会党としては、最小限度の妥協線に立脚して時間的な危機を乗切つたものであると。又公務員法改正に就いては、マ〔ツーカーサー〕

元帥の書簡が命令でない以上、政令が苛酷に過ぎることは有り得る。しかしこれも法令として出る迄は出来るだけ勤労大衆の線に沿って斗ひたい。一部の者の動きには同調すべきでないと結論す。

以上

日本社会党北海道支部連合会期間報告

昭和23年9月1日より9月13日迄に至る日本社会党北海道支部連合会（以下道連と略称）の行動を左の如く報告す。

記

9月3日〔金〕

浅野炭山立会演説会を沼田村浅野炭山労組にて開催す。「立会演説議題は公務員法改正について」。道連より西村〔武夫〕書記次長出席し大要左の如き演説を行う。

「マッカーサー元帥の書簡が対日理事会のシーボルト議長より明確に命令でなく勧告であると発表された現在、占領下に在る国家の再建が如何様に進まねばならぬかと云うことは、卑怯なる屈辱ではない。唯芦田〔均〕内閣が書簡を必要以上利用して人間の基本的人権を再び破壊する方向に歩むことには断乎斗はねばならぬが、吾々はあくまで国家の生産力を高めるための斗争でなければならぬ」。

9月4日〔土〕

夕張炭山平和鉦各党立会演説会。道連より喜多〔幸章〕書記長出席す。国家公務員法改正問題及び今回の政令に対する国鉄職場離剥に就いて

「国家公務員法が民主党と云う産業資本の代弁者である今日、マッカーサー書簡を悪用することは考へられる。がしかし、今回の職場放棄が社会党各地方支部の組織からの報告に依り、明らかに共産党の指導並に強力なるオルグ団の派遣に依るものであることは確実であるから、今後の議会内に於ける斗争に我党としては正しい公務員法制定のために闘う覚悟である」。

9月5日〔日〕

夕張市夕張製作所労組座談会開催、道連より喜多〔幸章〕書記長出席し

「民主的労働組合の在り方に就いて決論的に、暴力革命を排し社会民主主義に

依る平和革命の歴史的使命を確認して、労組内に於ける共産党のフラクション、会議的策謀が、単なる労組内に及ぼす党勢の拡大と云うより、労組を暴力革命へか〔駆〕る手段であることを知るべきである。〕

9月8日〔水〕

緊急常任執行委員会を道連会議室にて十時より開催。教育委員選挙に就いて最後の案を決定した。即ち「水島宣を唯一人推薦する。そしてあくまでも当選を期すため全組織を動員する。」

9月10日〔金〕

午后二時より栗沢村、寺にて各党立会演説会を開催す。道連より喜多〔幸章〕書記長出席、「農村問題は如何に在るべきか」に就いて、特に北海道に於いて最近勢力を殖えた農民同盟の共産党との提携方針に対して、社会党が、党の精神を中心に、農業と云へども国会勢力のない政党は到底その基本的農民解放の条件は満足されない。更に現実的に云つて、本道の農地改革について、地主の土地取上、牧野買収についての森林関係業者の反対運動、サラブレッド種の馬産に対する農林当局の欺^マ漫^マ的行動等について具体的に論述して、多大の感銘を与へた^マ」。

9月12日〔日〕

幌内鉦立会演説会を六時より三楽会館にて開催。道連より喜多〔幸章〕書記長出席。

「国家公務員法改正についてその基本的性格として占領下に在る日本労組運動の方針と、政令反対として職場放棄したる共産党の活動の結合を左づ考慮して始めなければならぬ。次に芦田〔均〕内閣の反動性が、マ〔ッカーサー〕書簡を如何に利用するかである。社会党は第三国会又は臨時国会でこの問題には全力を傾^マ到して階級政党の立場を明確にしたい。」

以上

日本社会党北海道支部連合会期間報告

昭和23年9月14日より9月28日迄に至る日本社会党北海道支部連合会（以下道連と略称）の行動を左の如く報告す。

記

9月14日〔火〕

新夕張砦にて政党立会演説会開催。道連より喜多〔幸章〕書記長出席、「インフレを如何にして克服するか」に就いて、即ち

「現下インフレを唯機械的に前大戦に於けるドイツのインフレと比較するだけでなく、今次大戦後に行った、欧州諸国、又中国等のインフレも、各々世界経済の連関性の上に乗って観察するとき、吾が社会党が屢々発表している様に、今や日本インフレは最終的段階に立至り、恐慌の様相を呈している。唯単なる生産増強の掛声ばかりでなく、同時に通貨処理の必要も発生して来た。又、絶対的貧困経済の下では、外資導入に依る回生の措置は待望するが、凡ゆる対策が並行して行はれる所に何等かの打開点が発見されるであらう。全て最善をその面に盡さねばならぬ。」

9月18日〔土〕

札幌支部青年部大会を公民館にて十三時より開催。道連より渡辺〔國於〕書記出席。

「党の前衛的性格を担当する青年部が何故もって実践的面の貧困を来たしたかの反省に出発し、岡田〔春夫〕代議士除名問題に対しては、近き中央委員会の決定に従うこととし、更に国鉄、殊に苗工労組内の共産党フラクションに対抗するための社会党青年部の積極的な理論の確立、行動性への熱情等を、更に来る青年部大会で検討する事を申合せた。」

9月21日〔火〕

全道支部代表者会議を午後一時より公民館にて開催。各支部三十五名出席。議題として、

「教育委員選挙対策に干し、社会党が水島宣を推薦せる理由及その対策として棄権防止と啓蒙宣伝を中心に積極的に全道組織を動員することに決定す。岡田〔春夫〕代議士問題は三笠支部より、その分派行動と共産党との提携的行動は容認出来ぬと声明文発表す。党は地方委員会の決議に依る脱党、除名反対の態度で中央委員会に臨むが、観測は是認と云う方向へ決定するだらうと思う」

9月22日〔水〕

札幌支部主催、教育委員水島〔宣〕候補の街頭演説会開催。場所、二条市場前、狸小路四丁目。弁士水島宣、喜多幸章、寺島親蔵、本間敏雄。教育委員会法の徹底していない今日、演説は全て人の集っている所へ押かけて行ってやること

に決す。

9月23日〔木〕

水島〔宣〕候補地方遊説に出発。渡辺〔國於〕書記随行す。①三笠町幌内砦第二配給所前、②奔別鉦労組事ム所前、③弥生砦労組事ム所前、④幾春別駅前、⑤三笠駅前、⑥岩見沢東宝劇場前、⑦岩見沢駅前

9月24日〔金〕

①栗山駅前（聴衆は数名のみ。）②新夕張市街福元前、山中〔日露史〕代議加はる。③新夕張放送塔（聴七〇名余）

9月25日〔土〕

①室蘭母恋駅前（聴集六〇名余）②室蘭駅通（二〇名余）

（以上）

日本社会党北海道支部連合会期間報告

昭和23年9月29日より10月28日迄に至る日本社会党北海道支部連合会（以下道連と略称）の行動を左の如く報告す。

記

10月5日〔火〕

社会党中央委員会出席のため中央委員、鈴木源重、喜多幸章、横路節雄、三沢正男の四氏上京す。

10月6日〔水〕

教育委員の選挙が行はれたが社会党推薦候補水島宜氏は第十位となる。

10月7日〔木〕

社会党中央委員会は中央大学講堂にて行はれ

〔10月〕8日〔金〕

北海道より前記四氏の他、道選出衆、参両議員参加す。左記の決議・決定をなす。

- 一、政局に関しては完全野党
- 一、不正事件に関して西尾〔末広〕氏除名決定
- 一、中央執行委員会の不信任を行ひ年内大会を開催する事に決議す
- 一、先の除名脱党問題による北海道選出の堺一雄、山中日露史の復党を承認

す

10月14日〔木〕

第四回道議会開催。道議互選の教育委員について社会党は農民党、国協党〔国民協同党〕と連繋による農民党の武田治作氏を推して決選投票を行ったが、三票の差で民主自由党、民主党、公正クラブの推す山口常一氏に敗れた。

10月14日〔木〕

委員長〔鈴木源重〕・書記長〔喜多幸章〕、東京より帰道す。

10月19日〔火〕

小樽支部年次大会を開催。連合会より喜多〔幸章〕書記長、高橋〔恒夫〕書記出席す。

10月21日〔木〕

角田支部役員会開催。喜多〔幸章〕書記長出席す。

以上

日本社会党北海道支部連合会期間報告

11月14日より11月28日に至る間の日本社会党北海道支部連合会（以下道連と略称）の行動を左の如く報告す。

一、党内情勢

（一）11月17日〔水〕

午後十二時半より道議会社会党控室に於いて第二回常任執行委員会開催。

出席者 水島〔宣〕副委員長、古屋〔正気は死去しているので誤り〕道政調査会長、喜多〔幸章〕書記長、寺島親蔵、三沢正男、服部清治、太平郁二、平野晁、正木ミツ、本間武三、横路節雄、荒哲夫

議事

一般党務報告

イ 東北北海道合同地方協議会報告

平野〔晁〕常任

ロ 道議組織活動状況報告

喜多〔幸章〕書記長

各部報告

イ 機関紙部

部長代理 喜多書記長

1 12月1日付で北海道社会新聞第一号を発刊

- 2 財政は全く独立とする事
- 3 商品的価値あるものとし支局制をとる
- 4 主筆は権威者を求める

ロ 財政部 三沢〔正男〕部長

百万円カンパは先づ地元八雲支部で六万円を作った。今後道内を巡回し所期の目的を達したい故、協力を御願ひする。

ハ 教育文化部 部長 服部清治

教育文化活動は横路氏と協議の上で具体的に進めたい。

ニ 炭礦部 部長 太平郁二

組織確立の具体的な増産協力態勢を推進する。

ホ 組織宣伝部 寺島〔親蔵〕部長

書記長と打合の上に組織的な活動を展開したい。

ヘ 漁村部 部長代理 喜多書記長

日本漁民組合組織部長二村健一氏が約一ヶ月の予定で来道、本道漁民組織応援の為各地で座談会又は講演会を計画す。

議案

（一）道政調査会確立に関する件

道会議員会幹事団と正副委員長、喜多書記長、服部〔清治・教育〕文化〔部長〕、平野〔晁〕青年〔部長〕、の小委員会を設けて〔11月〕22日頃迄に具体的な案を確立すること

（二）機関紙発行の件

機関紙部の計画通り発刊すること。

但し、計画に対して充分検討を加へて完璧を期すること。

（三）財政確立に関する件

三沢〔正男〕財務部長の立案を基礎に財務部会で検討し百万円カンパの実現を期すること。

各支部は積極的に財政確立の計画を立案し、これに協力すること。

（四）各部会確立に関する件

副部長は部長が直接又は書記局と打合の上に至急選任し、部員は原則として各部支部の部長を以って充てること

決定済の副部長

機関紙部

藤井清（小樽）

炭礦部

浅野良治（赤平）

(二) 出版物

青年部報第三号

二、 行動報告

11月15日〔月〕

北大中央講堂（北農、農技連、農民同盟主催）にて十時より北海道農業復興會議結成大会に喜多〔幸章〕書記長出席、祝詞を述ぶ。

11月16日〔火〕

午後三時より琴似町農民組合連合会総会開催され喜多〔幸章〕書記長出席、農民組合が新日本農業の推進力となって健全なる民主的方向へ発展することを衷心より願うと挨拶す。

社会党赤平支部大会（午後三時半）、道連より平野〔晁〕常任出席し、社会党の北海道地方情勢と東京に於ける中央情勢を説明した後、道連及各支部は如何なる方法で活動を展開して行くかに就いて座談に入る。

11月18日〔木〕

美唄町農地改革促進会役員会開催されし為、喜多〔幸章〕書記長出席し、農地改革が大体順調に進捗しているが農地法の徹底が未だ不十分である〔以下欠〕

11月23日〔火〕

午後一時から滝川化学職場支部大会举行され、道連から鈴木〔源重〕執行委員長、喜多〔幸章〕書記長出席す。鈴木委員長からは道会を中心とする政治の民主化運動に就いて、又喜多書記長からは社会党の性格を現情勢に則して詳細に夫々講演をす。

11月22日〔月〕

本道漁民組織後援会（座談会）が23日根室、24日釧路、25日白糠と開催予定にて、道連より渡辺〔國於〕書記出張するも、講師二村健一氏の都合で延期となる。

以上

昭和24年1月1日より1月13日迄に至る日本社会党北海道支部連合会（以下道連と略称）の行動を左の如く報告す。

記

〔1949年〕1月1日〔土〕

社会党道連書記局は北海道選挙対策本部に切換へ、選挙対策委員長木下源吾、全副委員長川人源一〔市〕、全荒哲夫は直ちに社会党立党の精神に即して現下民主革命の主体的勢力たるべく各常任書記を激励した。

1月2日〔日〕

選挙対策本部書記局会議開催。木下〔源吾〕委員長外全員出席、

「今次選挙対策として基本的には社会民主主義の日本現下の危機的現実に於いて極左の共産勢力と極右反動的ファツシヨ勢力に対し占領下に於ける自主的民主勢力の健全なる発展を期すため全力をあげて闘うときである。従つて具体的選挙斗争に於いては大衆の啓蒙を兼ねる様に、即ち封建性の温存に対しては特に社会党の真に民主主義勢力は吾々今日の選挙戦を通じて斗ひ取る」と決論す。

1月4日〔火〕

党本部より最近アカハタ壁新聞等を利用して共産党が社共同を悪宣伝しているのに対して社会党の断乎たる声明を発表・送附して来たので、直ちに各組織に徹底させることに書記局会議で一決した。

声明書

「最近共産党は、社会党の下部組織が各地に於いて大挙共産党に合流して、社共同が下から行はれつゝあると宣伝しているが、これは真実ではない。いわゆる社共同は、今回の選挙に当って社会党よりの一部脱落分子の立候補を条件にして勧誘入党せしめ、もって社会党を動揺混乱せしめ、政治的ゼネスト等の破壊手段により社会的混乱の中に暴力革命を意図せんとする共産党の目的と運動方法は、敗戦日本の混乱を克服して一步〜経済の復興と民主主義の建設に邁進する吾が党の建設的方策とは全く相容れざるものである。吾党はかゝる見地より共産党との共同戦線を否定して来た。まして前衛党としての共産党と階級的大衆政党たる吾党との合同の如き全然不可能なことにして、我等の断乎反対するものである。

我等は労働者、農民、中小商工業者の結合体として立党の精神たる民主々義

革命の徹底、社会主義の断行、勤労階級の生活擁護のために独往邁進せんことを声明す。」

1月7日〔金〕

木下〔源吾〕委員長は函館党支部主催の選挙対策会議に出席、「第三区は保守勢力の地盤であるが、三沢〔正男（渡島支庁選挙区）〕道議の積極的活動により、〔北〕教組、全通、引揚者協会等も党支持に決定した」旨の報告があった。

日本社会党北海道支部連合会期間報告

昭和24年1月14日より全年1月21日に至る日本社会党北海道支部連合会（以下道連と略称）の行動其他を左の如く報告す。

1月11日〔火〕

道連〔衆議院議員〕選挙対策本部では事務上の各種処理一段落したので、高橋〔恒夫〕書記を、八雲米沢〔勇〕候補、及四区喜多〔幸章〕、太田〔信吉〕候補の選挙対策事務所へオルグとして派遣。

1月12日〔水〕

渡辺國於書記を第五区岡林〔歆喜〕、永井〔勝次郎〕、佐野〔法幸〕、第二区和田〔敏明〕候補に対するオルグとして派遣。

1月13日〔木〕

幌内労組各党大会演説会開催。道連執行委員山内栄二〔栄治〕出席。

各党労働対策に就いて、社会党としては

「党は如何なる情勢が来るとも、あくまで社会民主主義の上に立脚し、極右極左を排して、真にヒューマンズに目覚めた民主的労働組合の発展を期するものである。従って党としては、当面の破壊的共産主義勢力とは絶対同調出来ず、本来の民主主義政党として資本攻勢に対する積極的対策を樹立すべきである。」

1月17日〔月〕

電産労組各党立会演説会開催。道連より西村〔武夫〕道議出席し、各党選挙対策に就いて

「社会党は客観情勢劣悪のため当選第一主義と併行して組織運動経験者発見、選挙斗争を通じて党組織運動を強行しなければならない」

1月18日〔火〕

郵便局主催各党立会演説会開催。道連より平野〔晁〕常任出席し、

「社会党の立場として、公務員法改正に就いては、敗戦後労働運動が主として極左的組合主義に依って禍され、共産党がその戦術的行動によって一方的な非民主主義の方向に導いたのである。社会党は、反動的保守勢力がそのため着々地盤を築き上げて来たのであるから、むしろ公務〔員〕法そのものより労組運動指導を中心に、出来得る限り労働者の地位と生活の安定を計りたい」
「賃金問題については党の基本的政策に立脚し、最低賃金制、スライド制の確立を斗ひとりたい。全て民主的、平和的方針によりて実現したい。」と結論した。

1月24日〔月〕

三週間余に渉る総選挙〔23日実施の第24回衆院選〕は惨々たる敗北を喫した。社会党は立党以来の反動分子をここに整算し、真に勤労大衆政党として日常斗争に専念するの絶好の機会である。日本国民性の欠点として、極右か極左かの選択は当然であり、今後益々国際情勢からして激化するであろうが、社会民主主義政党としての社会党の前途は多難である。今にして敢然として極右、極左と斗ひ乍ら、人間性の自由と平和的民主主義の確立を計るべきである。』と云う党の結論に至った。

(以上)

日本社会党北海道支部連合会期間報告

昭和24年1月29日より全年2月13日に至る日本社会党北海道支部連合会（以下道連と略称）の行動報告を左の如く報告します。

記

1月28日〔金〕

十三時より札幌三越五階ホールに於て民主戦線統一懇談会が開催され、社会党より横路節雄常任委員、荒哲夫書記長代理出席す。

社会党、労働者農民党、共産党、労働組合総同盟、各単産労組よりそれぞれ参加し、第二次吉田〔茂〕内閣の行政整理、労働法規改悪等、部分的な問題を取りあげ、これら保守反動政策を打破するため共同闘争を行ふことにつき懇談す。

1月29日〔土〕

十時より三越五階ホールにて引続き民主戦線統一懇談会開催さる。道連より渡辺國於書記出席す。各政党より世話人を送り以て民主協議会を結成、共同闘争に関する一切の事務を運営することを決定す。

1月31日〔月〕

十時より道会副議長室に於て常任委員会及び選挙対策委員会が開催さる。荒〔哲夫〕書記長代理他十七名出席す。2月23日に行はれる道会議員補欠選挙に際し、札幌地区より塚本肇氏を、室蘭地区より長谷川正治氏を、旭川地区より中野了應氏を公認する事に決定す。

2月2日〔水〕

午前十時より角田町栗山に於て南空知地方協議会開催され、道連より高橋〔恒夫〕書記出席す。今回の総選挙に対する批判及び今後の活動方針につき討議する。

2月6日〔日〕

十時より赤平町敷島宅に於て北空知地方協議会開催さる。道連より荒哲夫書記長代理出席す。〔1月23日の衆議院議員〕総選挙に対する批判及び今後の活動方針につき討議す。

2月7日〔月〕

㊥〔丸井今井札幌本店カ〕五階ホールにて青年共産同盟主催の青年戦線統一懇談会開催され、道連より葦沢〔堅次〕書記、渡辺國於書記出席す。

2月9日〔水〕

十六時より金属労働組合青年部主催の懇談会が大興機械会議室にて開催され、道連より渡辺國於書記出席し社会党に対する批判及び労〔以下欠〕討論す。

2月10日〔木〕

十時より苫小牧□〔以下欠〕小牧市娯楽館に於て開催され〔以下欠〕出席す。今後の労働組合のあり方について労組の自主化徹底と家族の労働者的教育について講演す。

以上。

日本社会党北海道支部連合会期間報告

昭和24年2月15日より2月28日迄に至る日本社会党北海道支部連合会の行動を

左の如く報告す。

記

2月16日〔水〕

民主協議会主催、北海道勤労者総蹶起大会を午後五時より中央公民館にて開催。

2月1日行はれた民主協議会決定の左の十四ヶ条を討議す。

- (1) 号俸切下反対
- (2) 職階制の民主的改正
- (3) 寒冷地給の早急制度化
- (4) 労働法規改悪悪用絶対反対
- (5) 行政整理、企業整備による首切反対
- (6) 緊急停電絶対反対
- (7) 労働協約の御用化絶対反対
- (8) 義務教育費の御用化絶対反対 国庫負担
- (9) 失業救済事業の緊急促進
- (10) 生産を阻害する米価、供出、税金反対
- (11) 店と工場をつぶす重税反対
- (12) 大衆課税、物価値上絶対反対
- (13) 打倒吉田反動内閣
- (14) 凡ゆる民主勢力の統一結集

之等について社会党は個々の面については賛成し難いと云う基本的態度を闡明した。

2月19日〔土〕

民主協議会第三回総会を全石炭会議室にて十時より開催。道連より横路〔節雄〕

常任出席。議長に北労・山田長吉氏推され

- (1) 〔2月〕16日行はれた勤労者総蹶起大会の決議事項に就いて経過報告あり。
- (2) 労働法改悪反対の対策協議として、直ちに法制を研究して全労働に呼かけるべく準備する。

2月20日〔日〕

社会党北空知地方協議会結成式を砂川支部にて開催。道連より荒〔哲夫〕書記長代議出席。〔2月〕26、7日両日の道連大会の対策として、あくまで党再建

の方針を堅持して出席することに決議す。協議会長に松重博、書記長に金子一男を選任す。

2月24日〔木〕

全石炭会議室にて午後一時より「全石炭、炭労、炭硯協三社の労働法改悪反対合同大会」開催され、横路〔節雄〕常任、渡辺〔國於〕書記出席し、メツセーヂを贈る。^{マツ}「全勤労階級の生活権擁護のため、再建社会党は全勢力を挙げて援助する旨の挨拶を行う。

2月26日〔土〕

第四回道連全道大会を午後一時より中央公民館にて開催。第一日目には、道連経過報告、会計報告、中央報告を行う。中央報告は正木〔清〕前代議士が「党の議会主義偏向と総選挙の惨敗を自己批判し、あくまで今後日常斗争を通じて国民大衆のため闘うと、中央執行委員として報告す」

2月27日〔日〕

午前十時より運動方針に入り、「この度の社会党の惨敗から立上るため、先づ社会民主主義理論の確立が中心に活潑な論争が行はれ、今後の党員再教育のため、新しい執行部の努力に俟つと決議す」

又、「民主協議会もあくまで共産党とは一線を画し、政治戦線の統一は行はず、唯具体的な問題で共同斗争出来るものだけやることに決議す」

役員選衡は、委員長 荒哲夫、書記長 横路節雄、統制委員 西村〔武夫〕、喜多〔喜重〕、永井〔勝次郎〕、山中〔日露史〕、三沢〔正男〕、中央委員 堺〔一雄〕、山中、三沢、永井、和田〔敏明〕と決定す。

全日直ちに第一回執行委員会開催。3月下旬の党全国大会への代議員としては中央委員、地区代表と決定。

民主協議会事務局設置に関し共産党と協議会内で闘うため、絶対社会党から選任する様頑張ることを決議す。

(以上)

北海道民主協議会が一致して闘う一般政策に対する社会党の態度について。別紙の如き一般政策案が民主協議会より提出されたが、これに対しては別に正式討議することとし、現在は○印の項につき考慮中である。

○印の項については、その細部につき反対、修正の意見あり。

共社合同については全面的反対する。

共、社共同斗争については、全面的共斗はあり得ない。たゞ党の主体制が確立された場合は極部的に共同斗争をすることもある。

以上

北海道民主協議会記録
日本社会党北海道支部連合会

1月28日〔金〕〔午〕后一時 三越五階ホール

社会党・労働者農民党・共産党・北労・総同盟其他労働団体・民主団体の代表的約六〇名が参集し民主勢力結集についてそれぞれ意見を交換した。記録すべき決定事項なし。社会党より荒〔哲夫〕書記長代理、横路〔節雄〕中央委員出席す。

1月29日〔土〕 正后十二時 三越五階ホール

前日に引つゞき懇談し民主協議会を作ることに決定し準備会を持つことに決定。出席者前日に同じ。

2月1日〔火〕 正十二時 三越五階ホール

『共同斗争を如何に進めるか』上記の記事につき討議する。民主的な組織を作るため、労農党と特に懇談する。各団体より協議すべき問題を提出。

2月6日〔日〕 午前十時 中央公民館

2月1日の会合に提示された問題を討議し左の各項を当面の斗争目標として決定する。

- 一、 号俸切下反対
- 二、 職階制の民主的改正
- 三、 寒冷地給の早急制度化
- 四、 労働法規改悪悪用絶対反対
- 五、 行政整理、企業整備に依る首切り反対
- 六、 緊急停電絶対反対
- 七、 労働協約の御用化絶対反対
- 八、 義務教育費の全額国庫負担
- 九、 失業救済事業の緊急促進
- 十、 生産を阻害する米価・供出・税金反対
- 十一、 店と工場をつぶす重税反対
- 十二、 大衆課税、物価値上げ絶対反対

十三、打倒・吉田反動内閣

十四、あらゆる民主勢力の統一結集

之等の決定に対して社会党は個々の面に於て賛成しがたい。抽象的な表現としてのスローガンは賛成するも、一步前進し具体的なものとなつては、意見を異にする。(二)、(四)、(五)、(八)、(十四)の各項の個々についての問題は具体的に異なる。

2月8日〔火〕 午前十時 北教組二階

■〔民〕主協議会幹事会(暫定幹事)、〔2月〕16日の蹶起大会■■■いて。

2月15日〔火〕〔午〕后一時 全通札幌地協

16日の蹶起大会について。

2月16日〔水〕〔午〕后五時 中央公民館

全北海道勤労者総蹶起大会。

右は民主協議会の第一回行事であり、議題として〔2月〕6日の十四箇条の問題を討議する。立会演説会ありて散会する。

日本社会党北海道支部連合会期間報告

昭和24年3月1日より3月31日迄の日本社会党北海道支部連合会の行動を左の如く報告す。

記

3月1日〔火〕

大韓国民留民団・革命三十週年記念を十時より公民館にて開催。横路〔節雄〕書記長出席し、「東洋の搾取し圧迫されて来た人民大衆が、今日の反動攻勢下に一致団結して人間の生存権を守らなければならぬ」と祝辞、激励を述べた。

3月5日〔土〕

社会党主催労組有志懇談会を一時より全石炭三階で開催、三十五名出席して、「再建社会党が今後労組を中心として今日の民主革命の主導性を確保しなければ、再び左翼共産主義の巧餌となつて、勤労者の決定的不幸が来るから、各労組内黨員の積極的活動を期す」事に一致する。

3月6日〔日〕

千才〔歳〕支部大会を一時より千才劇場で開く。横路〔節雄〕書記長出席、「党

の再建は下部に於ける支部の再建にまつから、是非とも決意を新たにして精神的に斗争を展開されたい」旨の挨拶す。

各党青年部懇談会を一時より配電クラブにて開催。当面に於ける反動攻勢下の青年戦線統一促進について論議す。社会党としては、「あくまで共産党の主張する政治戦線統一の手段としての青年戦線云々は反対で、民主協議会的運営なり、出来るだけ協力する旨を述べる」（青年部員近藤敏、渡辺國於出席）

3月7日〔月〕

北教組大会が十時から東本願寺にて開催。横路〔節雄〕書記長出席し、「労働戦線統一について北労の暮々たる批判の中で今や新たな統一母体が生れる機会である。社会党は今再建の道を歩み出したが、充分御期待に副へる様努力したい」旨の祝辞を述ぶ。

3月7日〔月〕

全石炭大会を十時より公民館で開催す。荒〔哲夫〕委員長出席し、「労働戦線統一は労働戦線統一によつてその口火を切つて欲しい。首切、賃金不払、労働法改悪等、全労働者の団結は、今日をおいてない。社会党の再建は今後大きな役割を果たすであらう」旨のメッセージを贈る。

3月10日〔木〕

民協総会を一時より全石炭にて開催す。葦沢〔堅次〕書記出席す。労働法規改悪反対共同委員会よりの申入れによりて、民協としても全面的に労働戦線の母体としても共同斗争を行うことに決定す。

3月10日〔木〕

服部春生告別式が一時より観音堂にて開催。荒〔哲夫〕執行委員長出席して甲辞を述ぶ。「人民解放の戦士として力盡き倒れた同志の残された事業を吾々が継承するであらう」と。

3月15日〔火〕

社会党が依頼されている民協専ム局長を、岸孝一に決定す。

3月16日〔水〕

労働総同盟大会が九時より公民館で開催されたので、横路〔節雄〕書記長出席して、「総同盟は、極左共産勢力の圧倒的強かつた北海道に於いて充分反省して、真に人民的民主的労働組合育成に努力して欲しい」とメッセージを述ぶ。

3月19日〔土〕

道連第二回執行委員会を十時よりニューグランドにて開催。

全道大会で確認された基本線に則して、運動方針は民協を通じて闘うも、あくまで共産党とは妥協することなく、党のイデオロギーに忠実且勇敢に闘う事、社会民主主義理論徹底のため、パンフレット作製。

4月中旬の党全国大会出席のため準備会を開くこと。政治局員として、塚本〔肇〕、葦沢堅次、笠島保が決定。

3月24日〔木〕

民協主催労組委員長会議が公民館にて十時より開催さる。横路〔節雄〕書記長、渡辺〔國於〕書記出席。

結論として、①中小企業融資困難、②国内産業の外資による経営困難、③工場閉鎖、④首切りの具体化、⑤大学法案、⑥賃金不払、⑦低賃金現象の具体化、⑧農村の窮乏、⑨赤字企業の増大

右の問題について、全労働者一体となり労働戦線を急速に統一し、学生、一般市民、農民も含めた一大戦線を構成すべきであると。」

オール道庁大会が十時より北大工学部で開催されたので、葦沢〔堅次〕政治局員出席して「今や吉田反動内閣の首切りが具体的に現はれているとき、官業労働者への圧迫は日毎に強まっている。全道庁労働者の勇敢な斗争も、あくまで自己の責任と義務の上に立つて闘って欲しい」旨のメッセージを贈る。

3月26日〔土〕

札幌支部臨時大会を十時より興正寺にて開催す。終始激論が斗はせられ、腐敗せる市会議員錦戸〔善一郎〕、長沢〔信広〕、林下〔松下忠三〕、武田〔忠幸〕の四名を除名、桂〔猛〕、斉藤〔喜太郎〕、松宮〔利一〕の三名をケンセキ〔譴責〕処分と決議した。

横路〔節雄〕書記長は最後まで一党員として、民主的なしかも純情に燃える若き党員と亦正木〔清〕前代議士も同調してこの決議をなした。

3月27日〔日〕

幌内砦青年婦人蹶起大会に近藤敏青年部員出席。

「青年戦線統一は急務ではあるが、社会党としてあくまで政治戦線統一を排し、具体的問題について共闘する覚悟である」と決意を述べた。

3月30日〔水〕

民協主催メーデー対策準備会を一時より北労で開催。

ポスター、メーデー芸術祭を提案され、スローガンは共産党的なものを排してやる。芸術祭は賛成だが、社会党として財政的負担は出来兼ねる旨を述べる。

（塚本〔肇〕政治局員出席）

3月30日〔水〕

小樽市十七部消防番屋にて、鯨漁業対策漁民大会開催されたので、葦澤〔堅次〕政治局員出席す。「社会党としては例年鯨が道民の重大な栄養源であることから、これを確保するため、特別配給米を支給して横流しを防ぎ、米との物交等を防ぎたい」と挨拶す。

以上

〔欄外：㊦〕

日本社会党北海道支部連合会月間報告

昭和24年4月1日より4月30日に至る間の日本社会党北海道支部連合会（以下道連と略称）の行動を左の如く報告す。

記

4月1日〔金〕

政治局会議。出席者 横路〔節雄〕書記長、葦澤〔堅次〕、塚本〔肇〕、笠島〔保〕各政治局員。

事務長 高橋〔恒夫〕、平野〔晁〕、原〔??〕各オルグ

一、報告 滝川□□気象台の人員整理について

二、議題 全石炭解体に対して党の対策

- ① 基本方針として炭連に加入させず中立で炭労に参加させる
- ② 北労会議には絶対参加させぬ様全力を挙げる
- ③ 炭硯関係の党主脳は労組幹部を勇退させて各硯別に職場党支部の確立を急速に行はせる
- ④ 右の方針に基いて地区別にオルグを派遣する

4月4日〔月〕

民主協議会幹事会。出席者 葦澤〔堅次〕政治局員。

議題 鮮人問題、党としては第三国人間の争ひに介入せざる方針を決定。

4月5日〔火〕

農業団体労組統一大会（北農にて）。

案内状が来て居たが、荒〔哲夫〕委員長は、共産党のでつちあげた労組大会に

は出席する必要ないとの事で出席せず。

4月6日〔水〕

民協主催・メーデー対策委員会。渡辺〔國於〕書記出席。

議題 メーデーに対する基本スローガンの決定

七項目中、左の二項は反対を主張したが、多数決で否決さる。

- ① 民主人民政府の樹立
- ② 戦争に導く太平洋同盟参加反対

4月7日〔木〕

民協主催・メーデー対策行事委員会。菲澤〔堅次〕政治局員出席。

歌唱指導、タイムツ行進、演劇コーラス、ポスター展等の計画を決定す。

4月8日〔金〕

帝セン労組との懇談会。横路〔節雄〕書記長、塚本〔肇〕局員。

内容 社会党の職場支部の結成について懇談す。

4月9日〔土〕

砂川支部大会。出席者 笠島〔保〕局員。

道連第四回大会の方針にもとづいて砂川、東洋高压支部の臨時大会が開かれ、笠島局員出席して、党の再建には職場支部の拡大強化の重要性を強調、更に化学労組の統一（現在共産党が指導）に対しても積極的に乗出して北労のふくらましを策している共産党のインボオ〔陰謀〕を粉砕せよ、と激励す。

4月9日〔土〕

滝川化学労組大会。出席者 菲澤〔堅次〕局員。

しつよう〔執拗〕なる交渉戦によつて組合側の企業再建案を理解させよと斗争に□□て□□滝川化学大会で強調す。

4月10日〔日〕

全石炭解散大会。出席者 荒〔哲夫〕委員長。

「殆んどすべての労組の会議、大会に於いて口を開けば常に労働戦線の統一を叫びながら、ます〜分裂化せんとして居る現在、輝やかしい全石炭の二年の斗争の歴史を乗り越えて炭鉱労働戦線の統一の為に心よく無条件にて解散、合同する事は、実に日本の労働運動に新たな前進をあたえるものとして他産業別労組のはん〔範〕とすべきであろう。然し、今後の発展が速に重大である。願はくば真の労働戦線の統一民主的労働組合の在り方を事実をもつてしめす様にしていきたい。」

大要、右の如き挨拶をのぶ。

4月10日〔日〕

全国党大会出席の為、横路〔節雄〕書記長上京。

4月11日〔月〕

北海道一般□建労組大会。出席者 佐藤〔吉次郎〕道会議員。

「国内情勢の急迫にともない、失業者の増大は火を見るよりあきらかである。

しかも吉田反動内閣は之に対する何らの対策をももつて居ないのだ。諸君達は今こそ団結して具体的な失業対策を労働者の総意で作り上げるようにせよ」

大要右の如きメッセージを送る。

4月1日〔金〕

農民同盟大会。出席者 荒〔哲夫〕委員長。

4月11日〔月〕

全石炭解散懇談会。荒〔哲夫〕委員長出席。

4月12日〔火〕

党全国大会出席の為、塚本〔肇〕、笠島〔保〕政治局員上京。

4月12日〔火〕

党中央委員会。横路〔節雄〕書記長出席。

4月13日〔水〕

13日より四日間、田中〔敏文〕知事のイブリ〔胆振〕地方しさつ〔視察〕にさいして齊藤〔正志〕道議同行する。

4月14日〔木〕

14日より三日間、中央大学講堂にて党全国大会開催。横路節雄、塚本肇、笠島保、古田朝一、佐藤半〔吉〕次郎、井野正揮、菅原英三郎、中野了応、西村武夫、大澤滝雄、渡辺国雄〔於〕、和田敏明、山中日露史、永井勝次郎

以上十四名、北海道割当代議員として出席。

役員改選（北海道関係）

会計監査 木下源吾、森三樹二

中央委員 荒哲夫、横路節雄、境一雄、山中日露史、三澤正男

4月17日〔日〕

夕張地区大会 出席者 荒哲夫

真谷地、大夕張、平和、夕張各砒事〔毎〕に支部結成が出来たので、夕張地区大会を開催す。

4月17日〔日〕

北空知協議会。茂尻 出席 葦澤〔堅次〕 局員。

北空知協議会大会の準備を行ふ。

4月14日〔木〕

荒〔哲夫〕 委員長、瀬棚へ出張す。

4月21日〔木〕

笠島〔保〕、塚本〔肇〕 政治局員、東京より帰札。

4月25日〔月〕

横路〔節雄〕 書記長東京より帰札。

4月27日〔水〕

全通、進駐軍労組、金属会議等より、メーデーに於ける基本スローガン（民協決定）を社会党は認めたのかどうかの質問に来る。

書記長〔横路節雄〕、社会党は反対したが、多数決で否決されたのである。民協の出発は、最□□的に行ふものであつて、決して多数決で決定するものでもないで、この点は此の次のキ□□〔キカイ〔機会〕カ〕に嚴重に警告するつもりで居る」と話して了解を得た。

4月30日〔土〕

日鉄労組大会に祝電を打つ。

吉田内閣打倒・平和擁護人民大会

国際的独占資本につながつた吉田売国内閣はいまや売弁独占資本の利益を守るために一切の生産を集中し、飢餓的な不等価貿易、企業整備に、重税等によつて広汎な人民大衆を急速に没落窮亡のどん底に突き落とし、さらに民族産業までも破滅に導こうとしています。すでに4月14日のブル新聞で見るとく政府の行政整理による首切りは道庁三割、各市二割にもおよび、さらにこれにつながる民間企業の大量首切りを合せば、本道のみで実に二十五万にもおよぶ莫大な失業者を新に追加せんとしてゐるのであります。

農漁民はもちろん市民も又昨〔昭和〕23年度の二倍にのぼる莫大なる所得税が衆議院を通過された。さらに追加する地方税等一連の売国政策のもとにいまや全くわが国産業、全人民は崩壊の危機に瀕しているのであります。このため労働者、農民、市民、中小企業はもちろん民族産業資本までも含めての広汎な人民的反撃は吉田内閣打倒、民族の完全独立と人民生活の安定を目標として猛然

黎明期日本社会党の地方組織（1）

と燃え上りさらに第三次世界戦争を宣伝し露骨なファツシヨ化をねらう国際的独占資本にたいしても全世界的民主主義諸勢力は世界平和を守れの合言葉のもとにさらに4月20日には遠くパリで平和ヨーゴ〔擁護〕世界文化人大会が開かれ、これに呼応して我国でも吉田内閣打倒、平和を守れの全人民大会、東京大阪をはじめ全国各地でホウハイ〔澎湃〕として起きています。

この時にあたりわが北海道に於いてもかゝる全人民的□□連を急速に組織し、平和ヨーゴと吉田内閣打倒の人民大会を左記により開催致しますので、是非御参加されるよう御願ひ致します。

日時 4月25日 十七時三十分

場所 大通り西三丁目道新〔北海道新聞〕前

式順

- 一、開会の辞
- 一、座長選出
- 一、一般情勢報告
- 一、提唱（社会党、共産党）
- 一、産業別状況報告
 - 全官公、中小企業、商業、電気産業、農業、漁業、化学、文化、教育、石炭、婦人、センイ〔繊維〕、其他
- 一、討議
- 一、決議 宣言発表
- 一、結語（労働者農民党）
- 一、閉会

主催 北海道民主協議会

後援 社会党、労農党、共産党、北労、総同盟、その他

日本社会党北海道支部連合会月間報告

昭和24年5月1日より5月31日に至る間の日本社会党北海道支部連合会（以下道連と略称）の行動を左の如く報告す。

記

5月1日〔日〕

メーデー〔一〕大会。午前十時より札幌市大通西七丁目。

社会党より横路〔節雄〕書記長、「吉田反動内閣打倒」についての提安説明を行ふ。大要左の如し。

「敗戦以来、われわれは四度目のメーデーをこゝに迎へることゝなつた。われわれを取巻く内外情勢は、決して、この春の様に暖かくはない。資本家階級は経済九原則と、いわゆるドッジ・プランをかれらの利益のために悪用し、〜労働階級の犠牲において、資本家的な経済の再建に躍起となつている。これに対する我々の陣容はどうなつて居るか。北海道のメーデーをのぞいて、何処に統一メーデーが行はれて居る所があるか。茲に民主協議会主催の下に民主戦線統一メーデーが運営されて居る事は、当大会のもっとも大きな意味である。先程から、多くの提案が万場一致採たくされて来たが、これらの一切の反動攻勢の元凶はいうまでもなく、われわれの当面の最大の敵、吉田反動内閣である。労働階級を始め、民主的諸団体は今迄の一切の行がかりをすて、一切の斗争を吉田反動内閣打倒の為の全人民的斗争を巻きおこせ、社、共、労三党も又、信義と友愛の上になつて相共に労働階級解放の一大巨歩を踏み出ださん」

更に道連本部前にて、書記長以下政治局員書記総員デモ行進を出迎へて激励、特に社会党支持の労組は共、労に社会党の再建を激励して行つた。

5月3日〔火〕

札幌市主催「憲法記念演説会」。午後一時、西創成校。

議題 わが党の政策に表れた人権の尊重について

道連より横路〔節雄〕書記長出席。当初予定せる演説内容も、演説会の模様が変化して居るため、吉田〔茂〕内閣の公約無視を追及してこの様な政党〔民主自由党〕に人権の尊重などは考へられない事を強調す。

5月4日〔水〕

当麻支部より村会議員を同行、道路改修についての陳情に来訪、書記長〔横路節雄〕あつせん〔幹旋〕す。

5月6日〔金〕

道選挙管理委員会主催「選挙法改正問題公聴会」に葦沢〔堅次〕政治局員出席。

5月7日〔土〕

岩見沢支部大会に塚本〔肇〕政治局員出席。

5月8日〔日〕

大会出席代議員打合せ、於道連本部。

出席者 横路〔節雄〕書記長、山中日露史、永井勝次郎、長谷川正治、笠島保、
佐藤半〔吉〕次郎、正木清

議題 全国大会報告についての各専門委員の報告内容の検討

5月9日〔月〕

第三回道連執行委員会、午前十時於道議会協議会室。

内容 別紙同封書類にて。

5月10日〔火〕

国鉄札幌支部より「地方施設部廃止問題」について陳情あり。荒〔哲夫〕委員長、横路〔節雄〕書記長面接、反対斗争の為に協力する事を約す。

5月18日〔水〕

横路〔節雄〕書記長、日本教職員組合全国大会に共産党との決戦の為、福島へ出席。

5月19日〔木〕

電産労組年次大会（於公民館）に荒〔哲夫〕委員長メッセージを送る。大要左の如し。

「電気産業労組組合は日本に於けるもつとも理性的な、しかも戦^マ斗^マ争^マな組織体として労働階級の前途の為に輝やかな数々の業績を打樹てきた。しかしながら、その運動の過程の中には、又、日本の現状を無シせる、観念的な運動の誤りをおかして来たことも素直に認めよ。諸君達こそが真に近代的プロレタリアートの先達として多くの遅れた日本の労働階級に斗^マふ^マ理論と実践の正しい有り方とをしめしながら団結を堅く日本の民主化をは^マぐ^マむ反動勢力打倒の為に斗^マふ^マ使命を有して居るのだ。然るに北海道の労働戦線の現情はどうか、諸君達が痛感して居る問題であると考へる。今や全国の電産の中に真に民主的な労組の確立の為に新しい運動が巻き起つて居る事を真剣に今日より始まる大会討論の中で解決して行って欲しい。反動勢力打倒の為に全労働階級がなつとく〔納得〕することが先なのだ」

5月20日〔金〕

全通大会、於帯広市、商工奨励館にて。）

塚本〔肇〕政治局員出張、メッセージを送る。大要左の如し。

「去る5月初旬、ラヂオ放送にて全通労組の中に再建同盟の結成が報ぜられ、組合の政党支配排除並に民主化の為に斗争を展開する事になつたと云ふ事を耳

にして此処に二句、今日の大会は明らかに共産派と再建同盟派との決戦である事は否定出来ない事実であらう。これをきめるのは代議員諸君だ。両派の論争を正しく分析して結論を下せ。その主体制の上にたつてこそ広汎なる対支配階級に対する斗争もなし得るのだ。然し大会を分裂させてわならない。日通の大会が良い前例だ。諸君達は国鉄全国大会のあの態度をまなぶべきだ。」

5月21日〔土〕

苫小牧支部再建大会。午後七時。道連より葦沢〔堅次〕政治局員出席。

5月21日〔土〕

赤間支部臨時大会、午後六時。道連より菅原〔英三郎〕執行委員、山田〔勲?〕オルグ出席。

5月24日〔火〕

共産党提唱・産業防衛会議、於公民館。社会党に案内状来るも参加せず。

5月27日〔金〕

古屋正気氏一周忌 於西本願寺。道連より荒〔哲夫〕委員長以下全員出席。古屋氏〔の〕党並に北海道水産業界に於ける功績をしのぶと共に、故人のめいふく〔冥福〕を祈る。

5月28日〔土〕

道連第一回統制委員会開催、於道会党控室。

札幌支部より具申せる市議四名（長沢信広、武田忠幸、錦戸善一郎、松下忠三）、けんせき〔譴責〕三名（松宮利一、桂猛、斉藤喜太郎）の件について支部より事情調取、結論は次会に持越す。

5月28日〔土〕

金属会議大会 於炭労事ム所会議室。道連より葦沢〔堅次〕政治局員出席。

「北海道の労働戦線統一の為の推進力としての金属会議の使命は重大である。更に中小企業ほうかい〔崩壊〕にひんして居る今日、今こそ諸君達は結束してこの打解の為全力をあげて斗はれん事を望む」

5月29日〔日〕

上砂川支部準備、一般会議、於上砂川町公民館。道連より高橋〔恒夫〕事務長出席。

以上

日本社会党北海道支部連合会期間報告

1949年6月1日より6月28日に至る間の日本社会党北海道支部連合会（以下道連と略称）の行動を左の通り報告す。

記

6月4日〔土〕

滝川化学争議情況聴取のため、道連より荒〔哲夫〕委員長、葦沢〔堅次〕政治局員が出張し、労組側より

「火力発電の設置について現下の産業復興に寄与するには電力不足の冬季間の自家発電であるが、石炭事情が未だ決定的に見通しのついてない今日、多少困難ではあるが、漸次上昇して来た石炭生産率を考へるとき、是非とも自家発電装置を設置したい」と説明あり。

「これがやがて生産の増強と勤労者の生活を増産と平行して擁護するものである」と決論を聴取した。

6月10日〔金〕

主要政党支部団体主幹者打合会を道庁地方課主催で道議会第一議員控室で開催。道連より高橋〔恒夫〕、遠藤〔一？〕書記出席す。

主として「法務庁特別審査局の団体等規正令団体等規正令施行規則」に就いての説明あり。

道連より質問として「機関紙の限界」。

これに対して、①団体自身が発行するもの、②間接的に関与しているもの、③政策その他の影響を与えているもの、④対内、対外問はず、定期、不定期を問はず発行しているもの、⑤壁新聞

以上の質問、解答を得た。

6月10日〔金〕

旭川総合木工場より工場運営についての陳情があったので、葦沢〔堅次〕政治局員同道して道庁民政〔生〕部長と面接、「中小企業の危機を乗切するためには、経営自体の中に労資と云う観念を止揚して積極的な金融・税金の面から再建を計るべきだ」と懇談陳情する。

6月13日〔月〕

炭労臨時大会第二日目が東本願寺にて開催されたので、道連から丁度帰省中の参議院議員木下源吾を派遣し祝辞を述べた。大要左の如し。

「旧全石炭の炭労合同によつて本道石炭産業労組は一本に統一されたが、労働戦線の統一は現在急を要している。しかし今や全道労働戦線の統一は金属、進駐軍、帝鉄其他中立と云はれる組合の大同団結による一大労働戦線を構成し、吉田反動勢力と対抗し、同時に労組の民主化は直ちに民主主義革命の前提であることを考へ、特定のイデオロギーに支配されることなく、輝かしい社会民主主義の下に全炭労働者諸君の団結を願ひたい」。

6月17日〔金〕

労働教育課主催の旭川労働学校に横路〔節雄〕書記長出席、「日本労働運動史」を講義す。骨子として、

「労働運動は共産党が宣伝・誇張する様なマルクスレーニン主義が理論的指導を為したとは云へず、当初はマルキズムの影響が決定的であつたが、次第に世界情勢、特に第一次大戦を契機として、実証的歴史的立場と云うものがマルクス・レーニズムを根本的に〔再〕検討を必要とするに至つた。現下の日本労働運動の方向が、依然として公式主義に引きづられているのは遺憾である。労働運動は先づ自ら民主化の徹底を計り、同時に責任と権利は正しく保持されなければならない」

○農民同盟青年部主催懇談会を北農連第三別館で三時一五時開催。道連より農地委員の明地道治を出席せしめる。

「〔社会〕党は、不徹底な第二次農地改革で、封建日本の農村は再び旧体制に復元することを憂慮している。速かに第三次農地改革を断行し、アジアの特殊な日本農業の酪農協同化を中心として新しい農業形態を作り上げるべきだ」との堂々たる見解発表に対し、

共産党山根〔修?〕は、「田中〔敏文〕知事の攻撃、社会党の悪口、温床障子紙問題攻撃」等で彼等一流のデマゴグな発言に終始したのみである。

6月18日〔土〕

上砂川集団入党式のため横路〔節雄〕書記長及荒〔哲夫〕委員長出席、

「今日、社会民主主義こそ日本民主革命の基礎理論であり、マルクス・レーニン主義は形を変へた全体主義、独裁主義とも云へる。即ち右翼反動勢力と共に日本革命の敵である。本道労働戦線の統一は眼前に迫っているが、これを邪魔する極左翼勢力に対して明確な一線を引いて勤労階級の弾圧を企図する独占金融資本勢力と闘う時期に際会している」と激励し、三十数名の入党式を行った。

6月19日〔日〕

幾春別炭砒労組・立会演説会開催。「労働法規は何故改正されるか」に就いて、道連派遣の西村〔武夫〕道議は、

「日本労働運動で極左勢力に支配され破壊戦術に嫌気をさした大衆が、反動的に右翼吉田内閣を成立させた。即ち今日勤労大衆を困難な立場に追いつめている反動勢力の復興は、共産党の暴力戦術が原因である。随つて極右勢力としては、この共産勢力に対して当然法的に即ち労働法規に制限を加へて解釈に於いては民主的、実質に於いては適当な圧迫を加へることの出来る様な可能性を加味したのである」、「社会党は民主的平和革命の主導勢力として、極左、極右に対して、真に民主的な労働法規制定のため国会を通じて闘う決意である」と述べた。

6月21日〔火〕

民主協議会幹事会 十三時北労会館。

- ① 公安条例反対斗争。但し社会党は共産党と共同斗争はしない、別個の立場で展開する
- ② 〔北海道〕開発公社板谷〔順助・衆議院議員（民主自由党）〕案反対。最も共産党と共同斗争は見合せ、社会党独自の開発案を作成する
しかし民協案作制するならば、社会党として資料を提出してよい
- ③ 民主主義擁護同盟の代表派遣は、社会党は保留とする

6月22日〔水〕

琴似支部大会を六時より役場会議室で開催。横路〔節雄〕書記長出席、「琴似は地理的位置から云つて、札幌と同じである。社会党道連の強力なる運動の展開は特に石狩支庁内支部の勢力に関係する。吉田内閣、共産主義勢力の抗争愈々熾烈なる今日、社会民主主義の使命は重大である。諸君の奮起を願う」とメッセージを送る。

6月23日〔木〕

道連執行委員会、十時道議会控室。

- ① 開拓〔開発〕公社板谷〔順助〕試案反対斗争展開のため、早急に社会党案の作製をする。
- ② 開拓〔開発〕審議会の構成運営は民主的に知事を通じて改正する。
- ③ 留萌道議補欠選挙は候補一名を出す故、積極的に闘う。候補は未定。
- ④ 農業対策として、農民組織は日農〔日本農民組合〕の共産フラク化と〔北

海道] 農民同盟の農村ボス性を衝き、次回までに決定的な方針を打出したい。

○労働教育課主催労働学校に横路〔節雄〕書記長出席、「単位労組の構成と運営」について講義。

6月24日〔金〕

夕張争議に対して道連より山中日露史を派遣し、労働法の解釈について弁護士
の立場から法的に説明す。

6月25日〔土〕

民主協議会主催・食糧公団立会演説会に横路〔節雄〕書記長出席。

「行政整理について」の題に対して、「社会党は原則的には反対である。しかし国家予算による整理は絶対反対であるが、地方予算による行政整理は配置転換等で対策を立てるべきである。特に今日失業対策が放置されているのは政府の責任全く重大である」との論旨で演説す。

6月25日〔土〕

若木勝蔵参議院議員の国会報告演説会を、六時より公民会で開催す。

「教育予算について吉田内閣の政策は全く独善的で、教育の振興以外に日本民主化の根源的な方途はないのである。しかるに国会勢力の過半数をよいことにして、全く勤労階級の一方的犠牲に於いて六・三制を徹底的に行わないのは、教育をなしがしろにしたと云うべきである。速かに民主主義革命の徹底を為すため、教育予算を確立し再びかゝる反動勢力を胎頭させざる様、全日本勤労大衆が立上るときである」

6月27日〔月〕

上砂川支部結成大会を六時公会堂にて開催するので、道連より蕪沢〔堅次〕、笠島〔保〕両政治局員出席す。先に三十数名の集団入党後、同地方は共産フラクを追放して社会党結成に邁進したものである。

「労働運動の二大潮流は、今や社民主義か、マルクスレーニズムかの情勢に在る。二者一を選択するには、真実に対する勇気を必要とする。吾々は高きヒューマニズムと世界平和のため、そして日本の長く苦しみ通して来た勤労階級のために皆さんと今日から同志として斗つて行くことは喜びを感じる。どうか上砂川の諸君は、茨の多いこれからの社会党を育成することは即ち世界平和と人類の幸福に繋がると自覚されて欲しい」と蕪沢局員代表して祝辞を述べた。

以上

日本社会党北海道支部連合会期間報告

1949年6月29日より同年7月30日に至る間の、日本社会党北海道支部連合会（以下道連と略称）の行動を左の通り報告いたします。

記

6月29日〔水〕

労農犠牲者記念碑竣工記念式。道連より遠藤一出席す。発言なし。

7月2日〔土〕

民主協議会主催・北海道綜合開発公社案（板谷〔順助〕私案）反対演説会が十一時より北海道新聞社との広場に於いて開催さる。

道連より横路〔節雄〕書記長出席、北海道を殖民地化せしめると解釈される板谷私案に対し、絶対反対の意志を表明した。

7月3日〔日〕

日本社会党東瀬棚支部大会開催され、塚越〔武雄〕支部長を中心に道連の運動方針について討議された。

7月5日〔火〕

道庁労働部主催の労働学校が北見市に於いて開催され、横路〔節雄〕書記長が講師として出席。労働組合の在り方について講義をした。

7月8日〔金〕

新幌内労組主催の立会演説会が新幌内昭和会館に於いて開催され、道連より西村武夫道議出席、「労働法規改正に伴ふ今後の民主的労働組合の在り方に就いて」演説を行つた。

7月9日〔土〕

札幌市役所職組主催の立会討論会に道連より横路〔節雄〕書記長出席し、国鉄の首切りと日本社会党の対度について、共産党の破壊的地域人民斗争に絶対反対の意志を表明した。

7月10日〔日〕

帯廣支部大会開催され、丸野〔幸一〕書記長を中心に運動方針の討議を行つた。夕張地方協議会開催され、道連より横路〔節雄〕書記長出席し行政整理に対す

る党の基本的態度として、統一された中央の団体交渉再開を以て斗ひ、共産党の破壊的地域分散ストは絶対排撃する旨を強調した。

7月10日〔日〕

札幌市自治制五十週年^マ記念式に、道連政治局より葦沢〔堅次〕政治局員出席し祝意を表明した。

7月12日〔火〕

北教組中央執行委員会に横路〔節雄〕書記長出席しメツセージを送つた。

7月14日〔木〕

第五回拡大執行委員会を開催、荒〔哲夫〕委員長はじめ二十五名参集す。委員長挨拶の後、書記長〔横路節雄〕より当面の情勢、特に定員法からくる国鉄行政整理の現状、並びに地方労働教育諮問委員の選出、党再建情報その他の報告あり。以上に基いて当面の行政整理反対斗争の基本的方針を次の如く決定した。

- ① 今回の不当行政整理に対しては、先づ統一された中央の団体交渉再開をもつて斗ふ。
- ② 分散スト地域ストは絶対排撃する。従つて斗争指令権は中斗が持ちすべてを集約斗争へ盛り上げる。
- ③ 臨時国会を速やかに開き、ドツヂラインを大中に修正し予算の組替をさせ実質的に定員法を徹させよ。
- ④ 臨時国会開催中に強力なる団体交渉を院内斗争と併せて行ひ、それにもかゝらず尚成功しない場合は、院外に於ける凡ゆる民主的団体と協力して大衆運動を展開する。
- ⑤ 労組の組織を確保するためにも党は積極的に行政整理反対斗争の指導権を握る。

7月15日〔金〕

池田支部大会開催され、沼田〔? ?〕支部長を中心に道連の運動方針について討議した。

7月19日〔火〕

民主協議会幹事会が公民館に於いて開催され、横路〔節雄〕書記長出席し、〔7月〕27日に民協総会開催を決定す。

7月20日〔水〕

労働文庫開設記念会、葦沢〔堅次〕政治局員列席す。

7月25日〔月〕

幾春別に於いて民主々義防衛町民大会開催され、横路〔節雄〕書記長出席しメッセージを送った。

7月27日〔水〕

民主協議会総会、労働会館に於いて開催さる。横路〔節雄〕書記長出席し、対道会対策について討議す。

7月29日〔金〕

民協幹事会開催さる、於労働会館。第三回定例道会開催期間中、道議会内に民協事務局を出張せしめ、院外各民主的団体の陳情及各議員との連結を取り扱ふことを決定した。

以上

日本社会党北海道支部連合会期間報告

1949年7月31日より8月28日に至る間の日本社会党北海道支部連合会（以下道連と略称）の行動を左の通り報告いたします。

記

8月3日〔水〕

十七時半より労働会館に於いて第一回道連政策樹立懇談会を開催する。現在反動的な民自党〔民主自由党〕政策と破壊的な共産党政策と闘つて日本社会党による社会主義の実現のために、党の主体性確立をなさんとするものであり、社会党道連の基本的問題や活動方針を樹立せんとするものである。別に拘束や規約があるわけではなく党を愛するものの同志的な研究会であり、懇談会である。炭労、日通、金属、全市連、全日木材、全通、国鉄、国鉄商工、私鉄総連、全道庁、総同盟等結集し、道連より横路〔節雄〕書記長、葦沢〔堅次〕政治局員、笠島〔保〕政治局員出席し、各組合の現状報告に基き情勢分析を行つた。

8月5日〔金〕

弥生炭硯労組主催・立会演説会に社会党より横路〔節雄〕書記長出席し、民自〔民主自由党〕、共産両党の批判と吾党の活動方針につき、一時間半にわたつて演説した。

8月5日〔金〕

民主協議会幹事会が道庁無所属道議控室に於いて開催され、横路〔節雄〕書記

長出席す。北海道庁外広告物取締条例に関してこれが第三回定例道議会に提出された場合、民協ではこれに反対するということを決めた。

8月10日〔水〕

千歳支部組織確立大会が開催され、道連より葦沢〔堅次〕政治局員、正木〔清〕前代議士出席し、吾党の失業対策他数項について討議す。

この日、千歳進駐軍要員による職場支部が結成され、田中菊太郎が支部長に選任さる。

8月10日〔水〕

農民同盟主催全道農民大会が開催され、道連より喜多幸章が出席する。

8月13日〔土〕

第二回政策樹立懇談会を十七時半より労働会館に於いて開催。金属、炭労、日通、全道庁他二十四名参集。道連より横路〔節雄〕書記長、葦沢〔堅次〕・笠島〔保〕政治局員、渡辺〔國於〕・竹花〔猛〕・遠藤〔一？〕書記出席し、労働戦線統一問題をとりあげ、研究討論を行ふ。

8月19日〔金〕

午前十時より中央公民館に於いて第六回執行委員会を開催、荒〔哲夫〕委員長他二十九名参集した。決定事項として、

- ① 〔社会党〕本部書記長鈴木茂三郎氏来道に関して全道的に行ふ遊説の具体的計画を決定した。
- ② 書記長来道を機に8月30日支部代表者会議を召集することを決定した。

8月20日〔土〕

第三回政策樹立懇談会を労働会館に於いて十七時半より開催。

炭労、全市連、全道庁、全日本材等参集し、道連より照井〔？〕書記出席。組合の現状報告の後、情勢分析を行ふ。

8月21日〔日〕

留萌支部大会開催され、道連より笠島〔保〕政治局員出席し道連の運動方針につき討議す。なほ留萌支部に於いては左記のとほり役員の変更を行った。

- (一) 支部長 武藤周三郎
- (二) 書記長 後藤秀雄

8月25日〔木〕

中央公民館に於いて日通労組大会が開催され、道連より横路〔節雄〕書記長が出席し、メッセージを送った。

以上

日本社会党北海道支部連合会期間報告

1949年8月29日より同年9月28日に至る間の日本社会党北海道支部連合会（以下道連と略称す）の行動を左の通り報告いたします。

記

8月29日〔月〕

日本社会党本部書記長鈴木茂三郎氏、機関紙局長稲村順三氏、組織局長浅沼稲次郎氏、婦人対策部長山崎道子氏等一行が北海道遊説のため来道す。鈴木氏稲村氏は札幌に於いて一〇時より四〇分間新聞記者との共同会見を行ひ、十一時より十二時まで中小企業対策懇談会に出席。一三時三〇分より十六時まで労組懇談会に出席。一八時より二〇時まで琴似町に於ける演説会に出席す。浅沼稲次郎氏山崎道子氏は十一時より一六時まで余市町の演説会に出席す。

8月30日〔火〕

社会党北海道支部代表者会議を札幌公民館に於いて開催す。

本部より鈴木〔茂三郎〕、浅沼〔稲次郎〕、稲村〔順三〕、山崎〔道子〕の四氏が出席し、本部報告として鈴木書記長は北海道に於ける社会党再建の重大性、日本に於ける北海道の占むる役割の重大性を説き、臨時国会の即時開会要求運動は、吉田内閣の現政策の矛盾を指摘、増大する社会不安を一掃する斗争であると強調し、党の主体制確立を待ち、速やかに倒閣運動を行ふと結んだ。

次いで浅沼組織局長は日常斗争を活潑にすることは即党組織の再建と党勢拡張を意味するものである。そしてそれは又必然的に共産党の戦略戦術を打破するものであると説明した。稲村氏は党機関紙の重要性と運動方針起草委員会経過報告をなし、山崎婦人対策部長は、婦人部確立は先づ党員の主婦の入党から！と説いた。

次いで横路〔節雄〕道連書記長より道連経過報告があり、終つて各支部代表者と本部書記長との間に質疑応答あり、最後に北海道総合開発問題につき、永井勝次郎氏（道連、道政対策委員、統制委員）より草案の説明があつて、午後五時四十分閉会した。

次いで公民館一号室に於いて一八時より社会党大演説会が開催され、横路節雄、

山崎道子、浅沼稻次郎、鈴木茂三郎の諸氏がそれぞれ熱弁を振つた。なほこの日、稲村順三氏は正木清氏（札幌支部所属）と共に千歳町に於ける演説会に出席した。

8月31日〔水〕

鈴木〔茂三郎〕本部書記長、稲村〔順三〕氏、和田敏明氏（旭川支部所属）は旭川市に於ける労組代表懇談会及演説会に出席した。浅沼〔稻次郎〕氏、山崎〔道子〕氏、小樽支部堺一雄氏は、小樽で開催の演説会に出席す。

9月1日〔木〕

鈴木〔茂三郎〕本部書記長、稲村〔順三〕氏、横路〔節雄〕道連書記長は、砂川町及び上砂川町にて開催された演説会に出席す。

浅沼〔稻次郎〕氏、山崎〔道子〕氏、荒〔哲夫〕道連委員長及森三樹二氏は、帯広に於ける党员懇談会及演説会に出席す。

9月2日〔金〕

鈴木〔茂三郎〕書記長、稲村〔順三〕氏、横路〔節雄〕道連書記長は、岩見沢及び幾春別にて開催の演説会に出席す。

浅沼〔稻次郎〕氏、山崎〔道子〕氏、荒〔哲夫〕道連委員長は釧路及春採に於いて開催の党员懇談会及演説会に出席す。

9月3日〔土〕

鈴木〔茂三郎〕書記長、稲村順三氏、横路〔節雄〕道連書記長及山中日露史氏は室蘭支部大会及室蘭に於て開催の演説会に出席す。浅沼〔稻次郎〕氏、山崎〔道子〕氏、荒〔哲夫〕道連委員長、木下源吾参議院議員は弟子屈に於ける演説会に出席す。

9月4日〔日〕

鈴木〔茂三郎〕書記長、稲村〔順三〕氏、横路〔節雄〕道連書記長及山中日露史氏は伊達紋別町にて開催の演説会に出席す。浅沼〔稻次郎〕氏、山崎〔道子〕氏、木下〔源吾〕氏、荒〔哲夫〕道連委員長は、網走にて開催の党员懇談会及演説会に出席す。

9月5日〔月〕

鈴木〔茂三郎〕書記長、道連横路〔節雄〕書記長は森町及函館市にて開催の演説会に出席し、稲村〔順三〕氏及び三澤正男氏（八雲支部所属）は八雲町に於ける演説会に出席す。

浅沼〔稻次郎〕氏、山崎〔道子〕氏、木下〔源吾〕氏、荒〔哲夫〕氏及び永井

勝次郎氏は北見市にて開催の党員懇談会及演説会に出席す。

9月6日〔火〕

鈴木〔茂三郎〕本部書記長、稲村順三氏は本道に於ける日程を終へ退道す。浅沼〔稲次郎〕氏、山崎〔道子〕氏、荒〔哲夫〕氏、和田敏明氏は留萌市にて開催の演説会に出席す。

9月7日〔水〕

浅沼〔稲次郎〕氏、山崎〔道子〕氏は芦別町に於ける演説会及び赤平町に於ける党員懇談会と演説会に出席す。

9月8日〔木〕

浅沼〔稲次郎〕氏は札幌に於いて労組代表者と懇談会を持ち、山崎〔道子〕氏は札幌市白川に国立第二療養所を訪問、看護婦と懇談会を持った。

9月9日〔金〕

浅沼〔稲次郎〕氏、山崎〔道子〕氏及道連横路〔節雄〕書記長は上磯町にて開催の演説会に出席し、これを以て本道に於ける日程を終了、退道した。

9月10日〔土〕

芦別労組主催の立会演説会に社会党より和田敏明氏出席し、「これからの吾々の生活は楽になるか」といふ演題にて演説した。

9月11日〔日〕

富良野支部結成大会開催され道連より和田敏明氏、竹花〔猛〕書記出席、激励す。支部役員次の通り決定す。

支部長 伊藤芳二 書記長 大川浪雄

9月14日〔水〕

炭労会議室に於て民主協議会幹事会が開催され、道連より横路〔節雄〕書記長出席す。民協より朝鮮人連盟解散に対する不当弾圧反対共同斗争申入れあり、社会党としては明15日回答する旨約す。

9月15日〔木〕

さきの民協からの朝連解散に対する不当弾圧共同斗争申入れについて、社会党道連では党本部の指示をうけ、社会党独自の行動をとり共同斗争は行はずとの対応をとり、民主協議会に対し次の如く回答した。

朝連解散に対する不当弾圧共同斗争についての回答。

表記の件に関しては昨9月14日の民協幹事会に於いて約束した通り、本日午

前十一時三〇分社会党本部に対し電話連絡により正式に中央執行委員会の指示を得た所、党本部としては本件に関して調査特別委員会を設置し、党独自の立場に於いて行動を行つているので、各地に於ける他団体との本件に関しての共同斗争については行つてならない旨指示あり、従つて道連合会としては本部指示通り行動することに決定しました。右の通り回答いたします。

民協御中

日本社会党北海道支部連合会

9月18日〔日〕

幌内砒労組主催の立会演説会が開催され、社会党より三笠支部書記長小嶋義雄氏出席す。

9月17日〔土〕

9月17日より21日まで稚内、北見、紋別、名寄に於いて開催の道庁労働部主催の労働学校講師として、横路〔節雄〕書記長出席のため出張す。

9月20日〔火〕

衆議院議員河崎なつ氏来道したので、20日上砂川町に於て21日幾春別及奔別に於いて婦人懇談会を党支部主催で開催し、道連より渡辺和歌子書記出席す。

9月23日〔金〕

輪西日鉄の溶砒炉休止問題につき道連横路〔節雄〕書記長は照井〔??〕書記を帯同、支援のため23日より25日まで出張す。日鉄輪西の二基の溶砒炉が休止するとこれに関連する中小鉄工場をはじめ、他生産業に甚大なる影響をあたへ、又石炭需要の面からも道内炭使用のこの溶砒炉休止は全道十一万の炭砒労働者の生活に直接影響をあたへるので、社会党は組織をあげて本道産業崩壊の阻止のために支援するものである。

9月26日〔月〕

横路〔節雄〕書記長は雄別支部の党員懇談会に出席す。

9月27日〔火〕

釧路に於いて開催された釧路支部党員懇談会に出席し、鳥取町との合併に伴つておこる市会選挙の対策につき懇談す。

以上

㊦

1949年9月29日より同年10月24日に至る間の日本社会党北海道支部連合会（以下道連と略称す）の行動を左の通り報告いたします。

記

10月1日〔月〕

総同盟道連第四回定期大会が労働会館に於いて開催され、道連より横路〔節雄〕書記長が出席しメツセージを送つた。

10月3日〔水〕

常呂支部大会が開催され道連より横路〔節雄〕書記長が出席し、当面の支部の活動方針について活潑な討論を行った。

10月6日〔土〕

函館に於いて開催された全通大会に道連より横路〔節雄〕書記長が出席し、メツセージを送つた。

10月9日〔火〕

石狩町高岡に於いて帝国石油労組石狩支部主催の共産党との立会討論会が開催され、道連より横路〔節雄〕書記長が出席す。主として世界労連、自由世界労連に就いての討論が行はれ、横路書記長は、自由世界労連に志向する線を強く出した。（なほ帝国石油労組は産別を脱退し現在はどこにも属していない）

10月12日〔金〕

第七回執行委員会が開催され、荒〔哲夫〕委員長他二十六名が出席した。議案及決定事項は次の通りである。

（一）釧路市長並に市会議員選挙対策について。

- イ 市長については党として現市長佐熊〔宏平〕氏を推す事に決定。
- ロ 市会議員は釧路支部推薦の太田益夫他九名を道連として正式に公認する事に決定。
- ハ 尚、共産党荒井英二氏より正式文書にて、市長、市会議員選挙に共同斗争の申入れがあつたが、社会党としてはこれを拒否する事に決定した。

（二）衣料登録に関する件

荒〔哲夫〕委員長より経過報告があり質疑に入つた。最後に荒氏より□四、五日中に解決を見るであらうと結ばれた。

（三）北海道民主協議会（以下民協と呼称）対策と、四党共同斗争について

現在報導機関に於いて党内の一部の人（足立〔梅市〕氏鈴木〔清一〕氏他）が〔第二次〕吉田〔茂〕内閣打倒共同斗争（共産党、社会党、労農党、農民党とも）を強調して党内で問題になつていと報導しているが、北海道としては和田敏明氏が出席しているやうに報じているが、この際経過を明らかにするように和田敏明氏に発言を求め、和田氏よりも基本的には民主的政策とは共同斗争すべきだと考へているが、今回問題になつている四党共同斗争に対する足立氏等の考へ方とは必ずしも同じではない。私〔荒カ〕はこの問題では同一行動はとつていない。結論として私としては党の決定に全く服するつもりであるとの発言を行つた。

尚、本日、労農党岡田〔春夫〕代議士、鈴木〔清一〕参議〔院議〕員より民協を通じて四党共同斗争について正式申入れがあつたが、この事についても討論が行はれ、結論として次の如く決定した。

即ち労農党から申入れのあつた四党共同斗争については来る〔10月〕25日の拡大執行委員会に於いて決論を出す。現在は民協の招へいには応じる。このことは、本道の民主的労組、又は民主的団体と共同斗争をする事であつて、四党とは共闘するものではない。

(四) 全道庁職首に関する件。

横路〔節雄〕書記長より経過報告あり、質疑、批判が交された。田中〔敏文〕道政を社会党的道政にもつてゆくよう強い要望があつた。

(五) 参議院選挙対策に関する件

明年行はれる参議院議員候補者決定につき種々意見の交換、各支部の対策の具申があつたが、結論が出ず、来る〔10月〕25日の執行委員会に持ち越す事と決定した。

10月12日〔金〕

民主協議会幹事会が開催され、荒〔哲夫〕委員長、横路〔節雄〕書記長共に出席不可能にて、道連書記林〔? ?〕、松本〔? ?〕、書面を持つて出席す。即ち本日の議題について、

(一) 岸〔孝一・民協〕事務局長の件は辞任を承認する、後任は総会に於て決定された。

(二) 労農党申入れの件については、来る〔10月〕25日の道連第八回執行委員会で決定したい。

(三) 民協総会の件は25日□□□□され度い。との書面を民協に提出した。

10月20日〔土〕

民協幹事会開催され、道連より横路〔節雄〕書記長、葦沢〔堅次〕政治局員出席す。大衆団体の幹事団を交へた民協参加政党の懇談会といふ形で行はれ、懇談経過の中にて内閣打倒共同斗争に言及したが、社会党としては中央の決定を重視し、基本方針としては四党共斗には応ぜられないといふ線を出した。なほ労農党よりもつと会合を持つことの要請あり、次期を〔10月〕24日に待つことに決定した。

10月23日〔火〕

三笠支部大会。横路〔節雄〕書記長出席す。

以上

日本社会党北海道支部連合会期間報告

1949年10月25日より同年11月28日に至る間の日本社会党北海道支部連合会（以下道連と略称す）の行動を左の通り報告いたします。

記

10月25日〔木〕

第八回拡大執行委員会を開催す。荒〔哲夫〕委員長をはじめ三十二名参集した。議案及決定事項左記の通りである。

- ① 参議院議員選挙対策について、若木勝蔵氏、木下源吾氏の現議員を道地区の公認として〔社会党〕本部に申請する。最後の決定は来年の定期大会に於いて決める。
- ② 道連事務所確立について。
- ③ 労農党よりの共斗申入れについて。去る第七回執行委員会より持ち越して来た労農党よりの四党共同斗争の申入れについて種々討議が交されたが結論として共斗を行はぬことに決定した。民主協議会は現在のまゝ存続しこの中で柔軟な斗争を行ふことに決定した。

10月26日〔金〕

民主協議会幹事会が開催され横路〔節雄〕書記長、葦沢〔堅次〕政治局員が出席す。議題及び決定事項左記の通りである。

- ① 岸〔孝一〕事務局長の辞任を認め、後任は事務局に交渉を任せる。

- ② 民協今後の運営について、社会党は労農党提唱の四党共闘は行はないが、民協を通じて従来どほりの斗争を行ふことを表明した。
- ③ 農民新党は党内事情により民協を脱党した。

11月1日〔火〕

道連役員正木清は釧路市〔議〕会選挙応援のため釧路に出張す。

11月8日・9日・10日〔火・水・木〕

道連統制委員永井勝次郎が釧路市〔議〕会選挙応援のため釧路に出張す。

11月9日・10日〔水・木〕

道連横路〔節雄〕書記長は釧路市〔議〕会選挙応援のため出張す。

11月11日〔金〕

釧路市〔議〕会選挙行はる。社会党所属党员阿部〔利夫〕、三輪〔正三〕の両氏が釧路市会議員に当選した（立候補者十名中）

11月18日〔金〕

第九回執行委員会開催。執行委員十二名参集す。議案及決定事項左の通りである。

- ① 道連臨時大会について。12月3日、4日に行ふ。
- ② 道連機構改革について。種々研究と討議を行ふ。

11月19日〔土〕

幌内炭硯立会演説会。道連より西村武夫道議が出席し、「炭硯労働者の生活はどうしたら楽になるか」といふ議題で演説を行った。

11月19日〔土〕

函館に於いて開催の労働学校に横路〔節雄〕書記長出席し、「現下の労働情勢について」講議を行った。

11月20日〔日〕

札幌支部大会開催され、役員の改選を行った。新役員左の通り。

支部長 日吉良一 副支部長 塚本肇 書記長 笠島保

以上

日本社会党北海道支部連合会期間報告

1949年11月29日より同年12月28日に至る間の日本社会党北海道支部連合会（以下道連と略称）の行動を左の通り報告いたします。

記

12月3日・4日〔土・日〕

道連第一回臨時大会を札幌市民館に於いて開催す。

出席代議員 琴似支部竹花猛他五十六名、委任状二十五名にて大会成立す。議案及び決定事項左記の通りである。

一、党綱領に関する件

審議の結果小委員会附記と決定す。

一、農業綱領に関する件

執行委員黒川留雄〔岩見沢市〕提案説明し、審議の結果小委員会附記と決定す。

一、機構改革に関する件

葦沢〔堅次〕政治局員提案説明し、大会これを承認す。

一、当面の活動方針に関する件

塚本〔肇〕政治局員提案説明し、一部字句の修正ありて大会これを承認す。

一、講和綱領に関する件

和田敏明提案説明し、審議の結果小委員会附記と決定す。

一、北海道総合開発に関する件

永井勝次郎提案説明し、審議の結果従来の■〔小カ〕委員会に於いて早急に北海道総合開発■■■案を□成すべしと決定す。

一、吉田内閣打倒に関する件

荒〔哲夫〕委員長提案説明、満場一致で可決す。

次いで各支部提案の緊急動議を審議採決し、道連費値下げに関する件を除く他は全部提案となり可決された。各支部提案の緊急動議左記の通り。

- 一、北洋漁業再開促進について（函館支部提出）
- 二、統制問題に関する件（札幌支部）
- 三、中央委員の委員会出席について（ク）
- 四、農業協同組合対策特別委員会設置の件（栗山支部）
- 五、道連費月額二十円に値下げする件（網走支部）
- 六、社会新聞に北海道版設置する件（琴似支部）
- 七、釧産税の道移管に反対の件（三笠支部）
- 八、炭砒労組内党員連絡協議会の運営促進について（ク）

次いで大会宣言、委員長挨拶ありて閉会す。

葦沢〔堅次〕政治局員、帰札する。

12月12日〔月〕

豊里より帰札した横路〔節雄〕書記長は直ちに寿都にむかひ六時半よりひらかれた演説会に出席す。道会議員時田政次郎氏の道政報告あり、次いで横路書記長は時局打倒として、

- 1、国際状勢の分析よりする極左共産党の戦術上の誤びゅう〔謬〕について
- 2、国内状勢の分析よりする極右民自党内閣の失政による労働不安、社会不安について
- 3、社会党の基本方針として、
 - イ 民主戦線の統一
 - ロ 農民戦線の統一
 - ハ デフレ政策を変更してデイスインフレにせよ

概要右の如き演説をなす。

12月13日〔火〕

歌棄村に於いて内容同様の演説会を行ふ。

12月14日〔水〕

□□〔磯谷カ〕村に於いて同様演説会を行ふ。

12月15日〔木〕

蘭越村に於いて農民代表者に対して内容同様の演説会を行ふ。

12月18日〔日〕

余市支部再建大会開催さる。横路〔節雄〕書記長出席し、一般情勢報告をなす。

以上

〔次々号に続く〕